

調査結果の分析

第1章 県民生活の満足度

1 質問項目と分析方法

(1) 質問項目の内容

問1 あなたは、お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか。

お答えは、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5つから選んでください。(はそれぞれ1つ)

(あなたにあてはまらない場合は、「わからない」を選んでください。)

満足度調査における各項目は、県民の多様な生活面について、現在どの程度満足しているのかを量るとともに、年次経過に伴う動向や傾向をも把握する目的で設定されたものである。このため、質問項目は変更しないことが原則となり、今回の調査においても、質問領域・質問項目は原則として前回と同じとした。なお、今回の質問領域・質問項目は図表1-1-1に示すとおりである。

質問方法については、前回までと同様である。すなわち、「お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか」と質問し、次いで、各質問項目について「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階の評価で回答する方法である。

なお、以下、各質問項目の記述に際しては、図表1-1-1の左欄の略称名を使用することとする。たとえば、健康領域の「日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について」の質問項目は、単に「日常医療」と記述する。

図表 1-1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目(略称名)	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域での防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について

居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住 宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道 路	あなたの地域の道路の整備状況について
	16 買 い 物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
労働	18 就 職 の 機 会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労 働 条 件	労働時間や休日、福利厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 労働全般	あなたの今のお仕事全般について
所得・消費	22 所 得	あなたのご家庭の所得について
	23 資 産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消 費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物 価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
教育・文化	27 幼稚園・保育所	幼稚園、保育所などの施設について
	28 小中高の教育	小・中学校、高等学校などの教育について
	29 高等教育の機会	県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
	30 家庭教育	しつけなどの各家庭の教育について
	31 生涯学習	趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
	32 文化施設	図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
	33 文化財・伝統継承	史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
	34 教育・文化全般	あなたや家族が日ごろ接している教育や文化全般について
余暇	35 自由時間	あなたが自由にできる時間について
	36 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	37 娯 楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	38 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	39 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	40 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	41 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行なわれる行事への住民の参加について
	42 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	43 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
44	生活全般	あなたの生活全般について

(2) 満足度の得点化

満足度の分析にあたっては、「満足」から「不満」に至る5段階の構成比率による分析を行うとともに、質問項目相互間、地域や年齢・性別などの属性間の比較をしやすいするため、得点化方式を用いることとする。すなわち、各質問項目について、各回答の評価段階ごとに一定の得点を与え、県全体、地域、年齢・性別などの属性間における比較検討のための集計グループごとの平均点をそれぞれの満足度得点として分析を進める。各評価段階の得点及び満足度得点の算式は、時系列分析も考慮し、図表 1-1-2 に示すとおり、過去の調査と同様とする。

図表 1-1-2 得点と算式

段階	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

A: 「満足」と答えた回答者数

B: 「どちらかといえば満足」と答えた回答者数

C: 「どちらともいえない」と答えた回答者数

D: 「どちらかといえば不満」と答えた回答者数

E: 「不満」と答えた回答者数

m: 「わからない」または「不明」を除いた回答者数 (A+B+C+D+E)

したがって、仮にこの得点のプラス値が大きければ大きいほど強い満足度であり、逆に、マイナス値で、その絶対値が大きければ大きいほど強い不満足度であることを示唆する。

また、「満足」と「どちらかといえば満足」の両者を一つにしたものを「満足層」とし、「どちらかといえば不満」と「不満」の両者を一つにしたものを「不満層」とすれば、この満足層・不満層の大小によっても、ある程度、満足傾向あるいは不満傾向の状況が推測可能と考えられる。

なお、この満足度得点を満足度水準の指標として用いるにあたっては、次のアからエまでの前提条件を踏まえて理解する必要がある。

ア 満足度の質は、質問項目ごとに異なるものであるが、これらを共通の尺度で測定できるものとの前提に立ち、満足度得点によって質問項目間の比較ができるものとしている。

イ 「満足」から「不満」までの5段階評価の数量的間隔、たとえば、「満足」・「どちらかといえば満足」の差と、「どちらかといえば満足」・「どちらともいえない」の差は、質的に見て必ずしも等しいとは限らないが、この差は等しいものとしている。

ウ 満足度得点は、得点の平均値であり、たとえこれが等しくても、「満足」から「不満」までの度数分布の型は、現実的には必ずしも一様ではないが、ここでは度数分布の型は一様であるものとしている。

エ 「わからない」または「不明」の回答者も、「満足」から「不満」までの5段階のうち、いずれかを選択した回答者と同じ回答分布であるものとしている。

(3) 満足度得点の標本誤差

この調査の結果は、県民全体の中から一部の県民を無作為に選び出し、この県民の回答を集計したものであり、いわゆる標本調査の結果である。したがって、この結果は、そのまま県民全体や地域全体、つまり母集団の意向、意識、意見を反映したものと考えられる。しかし、標本の満足度得点をもとに、母集団についての意向、意識、意見を把握しようとする場合には、標本誤差を考慮する必要がある。言い換えれば、標本調査は、調査の対象となった一部の人達の回答結果から母集団の状態を、ある程度の幅をもって推測する方法であり、今回の調査結果の検討・分析に使用している満足度得点は、標本となっている個々人の回答者の回答を得点に置き換え、全回答者の得点を合計し、算術平均として計算した平均得点である。統計学上、推測しようとする母集団の満足度得点は、標本の満足度得点を中心に上下に一定の範囲まで広げた幅の中にあるものと考えられる。通常、この幅は「標本誤差」と呼ばれているが、信頼度を95%とした場合、その誤差の大きさは、[標本誤差 = 標準偏差 × 2 ÷ 標本数の平方根]の算式によって計算される。

いま、ある地域の満足度得点と他の地域の満足度得点とを比較し、どちらの地域がより満足傾向にあるのか、あるいは同程度であるのかを判断する場合、両者の得点差が問題となる。統計的には、この判断は、比較しようとする項目間、地域間、属性間のすべてについて、上記の算式に従って、これを計算する必要がある。また、この得点差は、標準偏差と標本数の大きさによって決まり、標準偏差が小さく、標本数が大きい場合には、わずかの得点差でも「差(有意差)」があるものと判断される。しかし、本調査における標本数、得点値からすれば、概ね、県全体での各項目間、県全体と各地域間の比較については15~20点の差、地域間・各地域間の各項目の比較及び属性間・各属性間での各項目の比較については20~25点の差が、有意差の判断の目安になる。

2 満足度の概観

県全体における満足度調査の結果について、「生活全般」、「領域全般」、「個別項目」の3つに分けて概観する。なお、図表 1-2-1 は、過去3回の調査結果と今回の調査結果を比較したものである。

図表 1-2-1 質問項目別満足度（全県）

（単位：％）

領域	項目	年度	満足度					満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■ 満足	■ どちらかといえば満足	■ どちらかといえば不満	■ 不満	■ わからない				
健康	日常医療	16	11.6	46.2	21.8	11.2	5.4	57.8	16.6	41.2	
		20	14.8	37.6	26.2	11.1	6.4	52.4	17.5	34.9	
		24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	54.3	16.8	37.5	
		29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	58.8	13.6	45.2	
	救急医療	16	5.1	22.4	28.7	16.2	12.5	27.5	28.7	1.2	
		20	5.1	17.5	29.2	17.1	14.5	22.6	31.6	9.0	
		24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	26.5	26.7	0.2	
		29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	31.1	24.9	6.2	
	検診・相談	16	9.7	29.3	30.6	6.3	2.9	39.0	9.2	29.8	
		20	8.2	20.1	37.6	8.4	3.8	28.3	12.2	16.1	
		24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	33.0	9.9	23.1	
		29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	34.6	7.7	26.9	
	健康全般	16	5.5	36.0	36.2	10.3	3.8	41.5	14.1	27.4	
		20	6.5	26.3	39.6	12.5	5.1	32.8	17.6	15.2	
		24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	37.1	12.9	24.2	
		29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	43.0	10.4	32.6	
安全	交通安全	16	4.1	30.2	30.5	20.9	11.9	34.3	32.8	1.5	
		20	7.0	25.0	34.4	18.3	11.9	32.0	30.2	1.8	
		24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	36.4	28.0	8.4	
		29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	39.3	24.7	14.6	
	防犯・防火	16	5.2	28.6	39.1	13.3	5.4	33.8	18.7	15.1	
		20	7.0	27.1	40.6	10.7	4.7	34.1	15.4	18.7	
		24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	38.3	14.5	23.8	
		29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	41.4	12.2	29.2	
	自然災害	16	7.3	25.7	35.4	13.7	8.0	33.0	21.7	11.3	
		20	7.1	21.5	36.5	14.1	9.5	28.6	23.6	5.0	
		24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	33.1	20.2	12.9	
		29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	33.2	19.0	14.2	
	安全全般	16	4.5	36.5	39.2	11.6	3.7	41.0	15.3	25.7	
		20	5.6	30.4	42.1	12.0	4.3	36.0	16.3	19.7	
		24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	40.6	12.7	27.9	
		29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	46.3	10.4	35.9	

領域	項目	満足度							満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度	満足	どちらともいえない	不満	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	わからない				
居住環境	自然環境	16	14.3	40.7	22.5	11.2	6.4	5.1	55.0	17.6	37.4	
		20	18.1	39.9	22.9	9.3	5.2	4.7	58.0	14.5	43.5	
		24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1	
		29	24.2	39.0	23.5	5.6	2.6	5.1	63.2	8.2	55.0	
	大気汚染等	16	5.9	30.2	26.5	21.1	12.4	4.0	36.1	33.5	2.6	
		20	9.3	33.2	25.9	16.6	11.7	3.3	42.5	28.3	14.2	
		24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4	
		29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2	
	公園広場等	16	5.2	25.8	25.7	21.6	15.0	6.6	31.1	36.6	5.6	
		20	7.2	25.3	29.5	19.6	11.7	6.6	32.5	31.3	1.2	
		24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5	
		29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7	
	ごみ・生活排水	16	10.8	40.0	25.3	10.9	8.5	4.6	50.8	19.4	31.4	
		20	12.7	34.3	28.1	12.5	8.0	4.3	47.0	20.5	26.5	
		24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7	
		29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5	
	住宅	16	21.7	40.3	16.7	11.9	7.8	1.6	62.0	19.7	42.3	
		20	26.0	36.9	18.0	10.7	7.0	1.6	62.9	17.7	45.2	
		24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4	
		29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.9	1.7	66.9	12.4	54.5	
	公共交通機関	16	5.1	19.0	18.5	23.3	30.6	3.6	24.1	53.9	29.8	
		20	5.7	13.1	18.1	22.3	36.8	3.8	18.8	59.1	40.3	
		24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0	
		29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2	
	道路	16	6.0	30.4	24.4	21.0	16.3	1.9	36.4	37.3	0.9	
		20	7.6	28.1	26.5	18.8	17.0	2.1	35.7	35.8	0.1	
		24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2	
		29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1	
買い物	16	11.7	42.9	17.7	14.2	12.4	1.1	54.6	26.6	28.0		
	20	13.8	34.3	20.7	16.7	13.3	1.2	48.1	30.0	18.1		
	24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0		
	29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1		
居住環境全般	16	6.9	46.7	29.0	12.2	3.6	1.6	53.6	15.8	37.8		
	20	10.4	40.2	31.6	11.9	4.4	1.5	50.6	16.3	34.3		
	24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9		
	29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7		

労働	就職の機会	16	3.5	13.3	28.8	14.9	10.0	29.5	16.8	24.9	8.1
		20	4.6	14.4	28.1	14.4	11.1	27.4	19.0	25.5	6.5
		24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0
		29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6
	労働条件	16	4.1	21.0	28.5	14.2	8.4	23.8	25.1	22.6	2.5
		20	4.7	21.8	28.4	13.9	10.3	20.8	26.5	24.2	2.3
		24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0
		29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0
	仕事のやりがい	16	10.9	28.2	26.2	7.3	5.9	21.5	39.1	13.2	25.9
		20	11.0	30.7	25.1	8.2	5.8	19.1	41.7	14.0	27.7
		24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0
		29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6
	労働全般	16	7.4	29.9	26.5	9.3	5.9	21.1	37.3	15.2	22.1
		20	8.8	30.4	26.0	9.8	6.3	18.8	39.2	16.1	23.1
		24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0
		29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度		■ 満足		■ どちらかといえば満足					
				■ どちらともいえない		■ どちらかといえば不満		■ 不満		■ わからない	
所得・消費	所得	16	2.9	19.5	30.6	23.3	17.5	6.1	22.4	40.8	18.4
		20	4.0	20.0	29.0	21.0	21.1	4.9	24.0	42.1	18.1
		24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
	資産	16	2.6	14.6	35.9	19.8	15.6	11.6	17.2	35.4	18.2
		20	2.7	13.6	34.2	18.7	20.2	10.5	16.3	38.9	22.6
		24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
	消費	16	3.9	28.4	37.3	14.3	6.6	9.5	32.3	20.9	11.4
		20	4.5	23.8	37.9	16.1	8.9	8.9	28.3	25.0	3.3
		24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
	物価	16	0.5	11.5	29.9	29.3	24.1	4.6	12.0	53.4	41.4
		20	0.4	8.3	23.1	64.0	2.7	2.7	2.0	87.1	85.1
		24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
所得・消費全般	16	3.5	31.8	35.6	16.8	9.0	3.2	35.3	25.8	9.5	
	20	3.3	24.8	35.1	18.9	14.7	3.2	28.1	33.6	5.5	
	24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1	
	29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3	

教育・文化	幼稚園・保育所	16	6.4	30.1	27.2	6.0	3.8	26.5	36.5	9.8	26.7
		20	6.4	26.8	27.3	6.5	4.2	28.8	33.2	10.7	22.5
		24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
	小中高の教育	16	3.3	22.1	28.8	12.9	8.3	24.7	25.4	21.2	4.2
		20	4.4	19.9	29.1	13.3	8.0	25.2	24.3	21.3	3.0
		24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
	高等教育機関	16	1.4	11.5	30.4	17.7	10.2	28.8	12.9	27.9	15.0
		20	2.2	11.1	28.8	18.9	10.2	28.7	13.3	29.1	15.8
		24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
	家庭教育	16	1.5	14.1	35.8	16.9	14.3	17.5	15.6	31.2	15.6
		20	1.7	12.3	34.6	20.4	14.8	16.2	14.0	35.2	21.2
		24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5
		29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3
	生涯学習	16	2.1	17.5	38.8	14.1	5.4	22.1	19.6	19.5	0.1
		20	2.3	17.7	39.0	11.4	6.5	23.1	20.0	17.9	2.1
		24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
	文化施設	16	5.4	31.6	27.9	14.8	8.0	12.3	37.0	22.8	14.2
		20	6.6	29.8	31.0	11.6	7.7	13.3	36.4	19.3	17.1
		24	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7
		29	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1
	文化財・伝統継承	16	3.5	25.4	40.8	8.5	2.7	19.1	28.9	11.2	17.7
		20	4.4	22.8	38.8	10.0	3.6	20.3	27.2	13.6	13.6
		24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		29	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5
教育・文化全般	16	2.1	22.5	47.5	10.3	2.1	15.6	24.6	12.4	12.2	
	20	2.6	20.3	47.7	9.4	3.2	17.0	22.9	12.6	10.3	
	24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2	
	29	3.8	24.2	46.6	5.9	2.3	17.2	28.0	8.2	19.8	

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度		■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足				
余暇	自由時間	16	13.2	39.3	22.9	13.5	8.5	2.6	52.5	22.0	30.5
		20	15.3	40.8	21.0	11.7	9.4	1.7	56.1	21.1	35.0
		24	14.4	35.6	26.7	12.9	8.6	1.8	50.0	21.5	28.5
		29	16.6	36.6	22.4	13.4	9.1	1.9	53.2	22.5	30.7
	余暇施設	16	3.4	20.7	32.5	18.7	11.5	13.2	24.1	30.2	6.1
		20	4.3	19.4	31.2	19.2	10.9	15.0	23.7	30.1	6.4
		24	4.8	19.5	33.6	17.6	9.8	14.8	24.3	27.4	3.1
		29	5.4	19.9	33.8	16.3	8.9	15.7	25.3	25.2	0.1
	娯楽	16	3.1	20.9	31.1	18.6	12.8	13.5	24.0	31.4	7.4
		20	3.7	18.1	31.0	19.4	15.9	11.8	21.8	35.3	13.5
		24	2.6	18.5	31.0	20.2	15.0	12.7	21.1	35.2	14.1
		29	4.1	16.4	27.0	23.3	18.4	10.8	20.5	41.7	21.2
	余暇情報	16	3.0	19.0	38.3	18.4	8.9	12.5	22.0	27.3	5.3
		20	2.3	19.1	39.5	17.4	9.2	12.5	21.4	26.6	5.2
		24	2.7	18.9	41.9	15.7	8.3	12.5	21.6	24.0	2.6
		29	3.8	18.3	39.9	16.4	8.8	12.8	22.1	25.2	3.1
	自然と親しむ機会	16	5.9	28.4	38.4	8.0	3.6	15.8	34.3	11.6	22.7
		20	7.1	28.1	37.9	7.9	2.4	16.7	35.2	10.3	24.9
		24	6.1	27.2	40.6	6.8	2.9	16.4	33.3	9.7	23.6
		29	8.5	25.8	39.5	6.2	2.0	18.0	34.3	8.2	26.1
余暇全般	16	6.9	39.4	34.4	10.7	4.4	4.2	46.3	15.1	31.2	
	20	9.4	38.8	34.4	9.9	4.3	3.2	48.2	14.2	34.0	
	24	8.8	36.5	36.6	10.2	3.6	4.4	45.3	13.8	31.5	
	29	11.0	37.1	34.6	9.4	4.4	3.5	48.1	13.8	34.3	
福祉・連帯	地域とのつながり	16	6.5	34.9	35.4	10.5	4.2	8.5	41.4	14.7	26.7
		20	7.4	33.5	35.5	9.3	5.4	9.1	40.9	14.7	26.2
		24	8.0	29.6	41.1	9.0	3.7	8.5	37.6	12.7	24.9
		29	9.4	28.4	39.8	8.6	4.1	9.7	37.8	12.7	25.1
	福祉施策	16	3.0	16.5	35.5	20.9	12.6	11.5	19.5	33.5	14.0
		20	1.8	11.9	31.6	23.4	17.8	13.5	13.7	41.2	27.5
		24	2.0	13.4	37.4	20.8	12.7	13.7	15.4	33.5	18.1
		29	3.2	15.5	39.1	17.7	9.8	14.7	18.7	27.5	8.8
	福祉・連帯全般	16	3.6	23.1	40.5	13.7	5.0	14.1	26.7	18.7	8.0
		20	3.5	20.1	40.7	12.4	7.9	15.4	23.6	20.3	3.3
		24	3.4	20.7	40.8	13.8	5.8	15.5	24.1	19.6	4.5
		29	5.0	22.1	42.4	9.4	5.2	15.9	27.1	14.6	12.5
生活全般	16	3.6	44.6	34.7	9.0	3.7	4.2	48.2	12.7	35.5	
	20	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	44.7	17.1	27.6	
	24	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	42.9	15.0	27.9	
	29	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	48.1	12.3	35.8	

(注) 満足層 = 「満足」 + 「どちらかといえば満足」 不満層 = 「どちらかといえば不満」 + 「不満」
満足傾向 = 満足層 - 不満層 > 0 不満傾向 = 満足層 - 不満層 < 0
「わからない」は無回答を含む。
四捨五入の関係から ±0.1%異なる場合がある。以下の諸表においても同様である。

(1)「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2-1の最下欄に示されるように、「満足」が8.9%、「どちらかといえば満足」が39.2%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（平成24年度調査）の42.9%を5.2ポイント、前々回（平成20年度調査）の44.7%を3.4ポイント上回る

48.1%である。また、「どちらかといえば不満」は9.1%、「不満」は3.2%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前々回の17.1%と前回の15.0%を下回る12.3%であった。

満足層と不満層の差（満足傾向）は35.8%であり、前回の27.9%を7.9ポイント上回り、13年振りに30%台を回復した。なお、「どちらともいえない」という中間的な層は、前回の39.7%から2.4ポイント減少し37.3%となった。

(2)「領域全般」の満足度

各領域の「領域全般」について、満足層・不満層、満足傾向・不満傾向を領域間で比較する。

まず、今回の調査で満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で56.4%である。次いで、「余暇全般」の48.1%、「安全全般」の46.3%、「健康全般」の43.0%、「労働全般」の39.8%、「所得・消費全般」の37.1%、「教育・文化全般」の28.0%、最後に「福祉・連帯全般」の27.1%の順であった。今回はすべての領域において前回よりも比率が増加しており、特に「所得・消費全般」が8.1ポイント増加したほか、「健康全般」は5.9ポイント、「安全全般」は5.7ポイント増加しており、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査時に比べ拡大している。

一方で、不満層の割合が最も大きい領域は、こちらも前々回、前回と同様、「所得・消費全般」で21.8%である。次いで、「福祉・連帯全般」の14.6%、「労働全般」の14.2%、「余暇全般」の13.8%、「居住環境全般」の12.7%、「健康全般」及び「安全全般」の10.4%、「教育・文化全般」の8.2%という順になっている。前回と比較すると、「余暇全般」の不満層の割合に変化がなかった以外、すべての領域において不満層の割合が縮小しており、特に「所得・消費全般」で6.1ポイント、「福祉・連帯全般」で5.0ポイント減少している。

次いで、それぞれの「領域全般」に関して、満足傾向・不満傾向の状況について見ていく。

今回の調査では、前回同様、すべての領域において、満足層が不満層を上回っている満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、43.7%の「居住環境全般」が最上位となり、次いで35.9%の「安全全般」、34.3%の「余暇全般」、32.6%の「健康全般」、25.6%の「労働全般」、19.8%の「教育・文化全般」、15.3%の「所得・消費全般」、12.5%の「福祉・連帯全般」と続いている。

前回の順位と比較すると、前回1位「居住環境全般」は変わらず、前回2位「余暇全般」が3位に後退した一方で前回3位「安全全般」が2位に上昇し、今回4位「健康全般」、5位「労働全般」、6位「教育・文化全般」の順位は変わらず、前回7位「福祉・連帯全般」と前回8位「所得・消費全般」が今回それぞれ8位と7位と、順位が入れ替わっている。

なお、すべての領域において前回よりも満足傾向の比率が増加しており、特に「所得・消費全般」では+14.2ポイントと大幅に増加したほか、「健康全般」で+8.4ポイント、「安全全般」及び「福祉・連帯全般」でもそれぞれ+8.0ポイントと増加している。

「領域全般」の満足度を総合的に見ると、すべての領域において、前回よりも満足層の割合が拡大し、不満層の割合は概ね縮小しており、全体的に満足傾向が強まっている。

これは、いわゆる「リーマン・ショック」による世界的な経済不安定や、東日本大震災による大きな被害の影響が広く県民に残っていた時期に実施された前々回、前回の調査から、国による経済政策や災害復興の取り組み、県や市町村による地域振興の推進などから、社会的経済的な不安が徐々に払拭されてきた影響が表れていると考えられる。

(3) 「個別項目」の満足度

これまで見てきた「生活全般」及び8つの「領域全般」を除く、35の個別項目の満足度について、次に概観する。

第1に、各項目の満足層・不満層の割合の大小に着目する。

まず、満足層の割合が大きい項目(50%以上)としては、大きい順に、「住宅」(66.9%)、「自然環境」(63.2%)、「日常医療」(58.8%)、「ごみ・生活排水」(56.2%)、「自由時間」(53.2%)、「大気汚染等」(51.7%)、「買い物」(50.1%)が挙げられる。なお、「住宅」「自然環境」「日常医療」「自由時間」の4項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目(20%以下)は、小さい順に「物価」(10.8%)、「高等教育の機会」(16.3%)、「公共交通機関」(18.2%)、「福祉施策」(18.7%)、「家庭教育」(18.9%)、「生涯学習」(19.4%)の6項目であり、「物価」「高等教育の機会」「家庭教育」「生涯学習」「福祉政策」の5つは前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

次に、不満層の割合が大きい項目(50%以上)は、「公共交通機関」(56.4%)、「物価」(50.6%)の2項目であり、これらは過去3回の調査を含め、一貫して50%を超えている。

これに対して、不満層の割合が小さい項目(20%以下)は、小さい順に「検診・相談」(7.7%)、「自然環境」及び「自然と親しむ機会」(8.2%)、「文化財・伝統継承」(9.8%)、「幼稚園・保育所」(12.0%)、「防犯・防火」(12.2%)、「住宅」(12.4%)、「仕事のやりがい」及び「地域とのつながり」(12.7%)、「日常医療」(13.6%)、「小中高の教育」(14.0%)、「生涯学習」(14.1%)、「ごみ・生活排水」(14.7%)、「文化施設」(15.2%)、「大気汚染等」(18.5%)、「自然災害」(19.0%)の16項目であり、前回(13項目)から3項目が追加となっている(「小中高の教育」「大気汚染等」「自然災害」)。

第2に、満足傾向・不満傾向の強弱に着目する。

まず、満足傾向(満足層の割合が不満層の割合を上回るもの)が比較的強い項目(30%以上)は、強い順に、「自然環境」(55.0%)、「住宅」(54.5%)、「日常医療」(45.2%)、「ごみ・生活排水」(41.5%)、「大気汚染等」(33.2%)、「自由時間」(30.7%)の6項目とな

った。前回と比較すると、「自由時間」「大気汚染等」の2項目が追加となっている。

次に、不満傾向が強い項目（満足層の割合を不満層の割合が上回るもの）を挙げると、不満傾向（マイナス値）の強い順に、「物価」（39.8%）、「公共交通機関」（38.2%）、「娯楽」（21.2%）、「高等教育の機会」（10.5%）、「資産」（9.7%）、「福祉施策」（8.8%）、「所得」（5.7%）、「余暇情報」（3.1%）、「家庭教育」（1.3%）の9項目となった。なお、この9項目は、過去3回の調査を含めて一貫して不満傾向にある。

参考までに、前回との比較において、満足層の増減・不満層の増減を組み合わせで整理すると、次の図表1-2-2のとおりである。

図表 1-2-2 質問項目別満足層・不満層の対前回増減（全県）

区分	「不満層」が減少 (変化なし含む)	「不満層」が増加
「満足層」が増加 (変化なし含む)	日常医療 交通安全 自然環境 ごみ・生活排水 買い物 仕事のやりがい 消費 家庭教育 文化財・伝統継承 地域とのつながり 救急医療 防犯・防火 大気汚染等 住宅 就職の機会 所得 物価 生涯学習 余暇施設 福祉施策 検診・相談 自然災害 公園広場等 道路 労働条件 資産 小中高の教育 文化施設 自然と親しむ機会	幼稚園・保育所 高等教育の機会 自由時間 余暇情報
「満足層」が減少		公共交通機関 娯楽

図表1-2-2の左上の象限（満足層増加・不満層減少：ともに「変化なし」含む）の項目は、満足度水準を引き上げる又は維持する方向に作用するが、ここには全体35項目中の8割以上となる29項目（前回19項目）が属する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられるが、今回は「公共交通機関」「娯楽」の2項目が属するだけであることから、全体的に県民満足度は増加傾向にある。

前回と比較すると、前回、左下の象限にあった13項目のうち11項目、また右下の象限にあった「道路」が満足層の増加及び不満層の減少（ともに「変化なし」を含む）により左上の象限に移動し、多くの項目で満足度水準が向上している一方、前回左上の象限にあった「公共交通機関」及び左下の象限にあった「娯楽」が満足層の減少及び不満層の増加により、右下の象限に移動していることから、県民満足度水準の更なる向上のためには、これらの項目に注目していくことが重要と考えられる。

3 「生活全般」の満足度

ここでは、「生活全般」の満足度について、年次別、属性別に更に詳しく見ていくこととする。

(1) 全県の年次別推移

図表1-3-1 「生活全般」の満足度（全県）

(単位：点、%)

年次	満足度 得点	<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ 満足 ■ どちらかといえば満足 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ どちらともいえない ■ どちらかといえば不満 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ 不満 ■ わからない </div>						満足傾向 (+) 不満傾向 (-)	
		昭和49年度	35	16.4	38.3	18.7	15.6	10.5	0.5
昭和52年度	51	16.8	42.6	19.2	12.6	6.7	2.1	40.1	
昭和56年度	67	10.0	58.0	21.1	7.6	2.3	0.9	58.1	
昭和60年度	67	9.5	58.5	22.2	7.6	1.7	0.5	58.7	
平成元年度	73	10.2	61.1	20.8	6.0	1.4	0.5	63.9	
平成4年度	34	4.6	42.1	35.0	11.1	3.5	3.7	32.1	
平成7年度	37	5.3	42.4	36.8	8.6	4.3	2.8	34.8	
平成10年度	35	5.4	42.9	34.3	10.1	4.7	2.6	33.5	
平成13年度	40	5.5	45.4	34.3	9.8	3.5	1.5	37.6	
平成16年度	36	3.6	44.6	34.7	9.0	3.7	4.2	35.5	
平成20年度	29	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	27.6	
平成24年度	31	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	27.9	
平成29年度	42	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	35.8	

(注) 平成元年度までは面接聴取法による調査。平成4年度から平成24年度までは留め置き法による調査。平成29年度は留め置き法による調査とオンライン調査を併用にて実施。

この調査は、わが国の経済が第1次オイルショックの影響を受けた昭和49年度に始まり、今回で13回目である。そこで、昭和49年度から平成29年度までの43年間における県民の「生活全般」についての満足度はどのように推移してきたかを図示すると、図表1-3-1のとおりである。

昭和49年度から平成元年度までは、「どちらともいえない」とする中間層の比率が20%前後で、満足層（「満足」+「どちらかといえば満足」）が少しずつ増え、逆に、不満層（「どちらかといえば不満」+「不満」）が減るといって推移している。この結果、満足度得点は昭和49年度の35点から一貫して増加し続け、平成元年度にはピークとなる73点に達した。これに伴い、この間の満足傾向は28.6%から63.9%へ強まっている。

しかし、バブル経済の崩壊を背景とする平成4年度の調査では、満足層の大幅な縮小、不満層と中間層の拡大という形でその影響が表れ、満足度得点は34点、満足傾向は32.1%と、平成元年度における約半分と大幅に減少した。

その後、平成16年度までは満足度得点が30点台後半から40点の水準で推移していたが、平成20年度には世界的な経済不安定状況、いわゆる「リーマン・ショック」の影響などから、過去最低

となる29点まで満足度得点が落ち込む結果となった。続く平成24年度調査では、東日本大震災による社会的な不安も影響し、満足度得点は31点と微増であったものの、今回調査では、国の経済政策などの影響もあり、前回から+11点と大きく増加している。

なお、「どちらともいえない」とする中間層の比率は、平成4年度から概ね35%前後で推移しており、今回は37.3%となっている。中間層に関しては、昭和49年度から平成元年度まで20%前後であったものが、平成4年度以降35%前後で推移するようになっており、明らかに傾向が変わっている。これは平成4年度から調査方法が「面接聴取法」から「留め置き法」に変更され、調査員に対して直接回答する必要が無くなったことが、満足・不満の判断を明確にしない誘因のひとつとなったと考えられる。

(2) 属性別の満足度

次に、地域別、性別、年齢別、職業別、居住年数別、県外居住経験別の属性ごとに、「生活全般」の満足度の状況を整理・分析する。

ア 地域別による満足度

図表1-3-2は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

まず、満足層の割合の大きい地域順は、「峡南」(51.7%)、「峡中」(51.0%)、「峡北」(48.3%)、「峡東」(46.6%)、「富士・東部」(42.6%)となっており、最上位の「峡南」と最下位の「富士・東部」の開きは9.1ポイントである。前回との比較では、すべての地域で満足層が増加し、「峡南」で+10.8ポイント、「峡中」で+6.0ポイント、「峡東」で+4.8ポイント、「峡北」で+3.8ポイント、「富士・東部」で+3.1ポイントとなっている。

一方、不満層の割合の大きい地域順は、「峡東」(14.1%)、「富士・東部」(14.0%)、「峡中」(11.7%)、「峡南」(11.2%)、「峡北」(7.7%)となり、最上位の「峡東」と最下位の「峡北」の開きは6.4ポイントである。前回との比較では、「富士・東部」で不満層が1.2ポイント拡大した以外は縮小しており、「峡北」で-9.7ポイント、「峡南」で-7.1ポイント、「峡東」で-5.8ポイント、「峡中」で-1.5ポイントとなっている。過去3回を含めた推移を見ると、前回調査まで満足層の割合が縮小傾向にあった「峡中」「峡東」「峡南」「富士・東部」が今回拡大に転じているほか、不満層の割合でも「峡北」「峡東」が前回までの拡大傾向から縮小に転じていることから、「生活全般」における県民の満足度水準は概ね向上している。なお、参考までに、今回と過去3回の調査における満足層と不満層の地域別順位をまとめると、図表1-3-3のとおりである。

次に、満足度得点を見ると、得点の高い地域順に、「峡北」(48点)、「峡中」(46点)、「峡南」(45点)、「峡東」(41点)、「富士・東部」(34点)となっており、最上位の「峡北」と最下位の「富士・東部」の開きは14点である。前回との比較ではすべての地域で満足度得点が増加しており、「峡東」及び「峡南」で+21点、「峡北」で+18点、「峡中」で+9点、「富士・東部」で+4点となっている。

最後に、満足傾向・不満傾向を見ると、すべての地域において満足傾向となり、その傾向の強い地域順は、「峡北」(40.6%)、「峡南」(40.5%)、「峡中」(39.3%)、「峡東」(32.5%)、「富士・東部」(28.6%)となっている。

図表 1-3-2 「生活全般」の満足度（地域別）

（単位：点、％）

地域	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
全 県	16	36	3.6	44.6	48.2	34.7	9.0	3.7	12.7	4.2	35.5	
	20	29	5.0	39.7	44.7	35.4	12.4	4.7	17.1	2.7	27.6	
	24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
峡 中	16	32	3.3	42.4	45.7	36.3	9.5	4.1	13.6	4.2	32.1	
	20	30	4.3	41.4	45.7	35.6	11.5	4.6	16.1	2.7	29.6	
	24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
峡 北	16	38	2.4	45.3	47.7	37.6	8.2	2.4	10.6	4.1	37.1	
	20	26	6.4	32.7	39.1	43.6	9.6	5.1	14.7	2.6	24.4	
	24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
峡 東	16	36	4.1	45.3	49.4	35.2	9.1	4.1	13.2	2.2	36.2	
	20	25	4.1	38.4	42.5	35.1	13.9	4.5	18.4	4.0	24.1	
	24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
峡 南	16	54	5.2	55.2	60.4	26.9	3.0	5.2	8.2	4.5	52.2	
	20	22	3.2	43.5	46.7	26.6	20.2	4.0	24.2	2.4	22.5	
	24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
富士・東部	16	38	3.8	44.4	48.2	32.9	10.3	2.9	13.2	5.8	35.0	
	20	32	6.8	39.2	46.0	34.9	11.8	5.0	16.8	2.3	29.2	
	24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	

図表 1-3-3 満足層・不満層の地域別順位一覧

年度		峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
満足層	平成 16 年度	5	4	2	1	3
	平成 20 年度	3	5	4	1	2
	平成 24 年度	1	2	3	4	5
	平成 29 年度	2	3	4	1	5
不満層	平成 16 年度	5	2	3	1	3
	平成 20 年度	2	1	4	5	3
	平成 24 年度	2	3	5	4	1
	平成 29 年度	3	1	5	2	4

（注） 満足層は％の高い順、不満層は％の低い順。

イ 性別による満足度

図表1-3-4は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」の45.8%に対して「女性」は50.5%と、「女性」の方が4.7ポイント大きくなっている。一方、不満層では「男性」の13.4%に対して「女性」は11.0%と、「男性」の方が2.4ポイント大きい。満足度得点については、「男性」（37点）より「女性」（49点）が12点高く、満足傾向についても、「女性」（39.5%）が「男性」（32.4%）よりも7.1ポイント大きいなど、総じて、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高い。

前回の結果と比較すると、「男性」「女性」ともに満足層の割合は拡大して不満層の割合は縮小、満足度得点は増加していることから、性別に関係なく全体的に満足度水準は向上している。

図表 1-3-4 「生活全般」の満足度（性別）

（単位：点、％）

性別	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
男 性	16	33	3.7	42.6	46.3	35.5	10.1	3.9	14.0	4.0	32.3	
	20	18	4.2	34.5	38.7	38.0	15.0	5.5	20.5	2.8	18.2	
	24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.4	1.5	32.4	
女 性	16	40	3.5	46.6	50.1	34.0	8.0	3.5	11.5	4.4	38.6	
	20	39	5.7	44.5	50.2	33.1	10.1	3.9	14.0	2.7	36.2	
	24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	

ウ 年齢別による満足度

10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-5のとおりである。

まず、満足層の割合について見ると、大きい順に、82.5%の「18～19歳」、59.2%の「70歳以上」、48.1%の「50代」、46.7%の「40代」、44.1%の「60代」、43.6%の「20代」、42.3%の「30代」となっている。一方、不満層の割合を見ると、小さい順に、5.0%の「18～19歳」、6.4%の「70歳以上」、12.4%の「40代」、12.6%の「50代」、13.3%の「60代」、15.3%の「20代」、15.8%の「30代」となっている。前回の結果との比較によると、不満層の割合はほぼすべての年齢層で縮小しているが、満足層の割合は「70歳以上」(+13.6ポイント)、「50代」(+11.1ポイント)で2桁の増加が見られる一方、「30代」(-4.7ポイント)、「60代」(-1.2ポイント)で減少しているなど年齢層で傾向にばらつきが見られる。

次に、満足度得点について見ると、高い順に、「18～19歳」(110点)、「70歳以上」(70点)、「50代」(41点)、「40代」(39点)、「60代」(33点)、「20代」及び「30代」(32点)となっている。

前回の結果との比較では、「70歳以上」(+29点)、「50代」(+24点)で大きく増加している一方、「60代」(-4点)、「20代」(-2点)では減少するなど、満足度得点においても年齢層による傾向のばらつきが確認できる。

図表 1-3-5 「生活全般」の満足度（年齢別）

(単位：点、%)

年齢	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満 足 傾 向 (+)	不 満 傾 向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
18 ～19歳	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	29	110	32.5	50.0	82.5	10.0	2.5	2.5	5.0	2.5	77.5	
20 ～29歳	16	32	5.9	37.3	43.2	39.6	11.0	3.1	14.1	3.1	29.1	
	20	37	7.2	37.2	44.4	38.2	10.6	2.9	13.5	3.9	30.9	
	24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.6	3.1	27.3	
	29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	
30 ～39歳	16	34	3.6	44.0	47.6	35.3	10.0	3.9	13.9	3.2	33.7	
	20	17	2.9	36.9	39.8	38.0	15.0	5.5	20.5	1.8	19.3	
	24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	
	29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	
40 ～49歳	16	25	1.3	41.2	42.5	39.0	11.3	4.1	15.4	3.1	27.1	
	20	12	2.7	36.9	39.6	33.9	15.0	8.0	23.0	3.7	16.6	
	24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	
	29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	
50 ～59歳	16	29	4.3	39.3	43.6	40.9	9.6	4.6	14.2	1.3	29.4	
	20	29	5.8	39.2	45.0	35.1	13.7	4.4	18.1	1.8	26.9	
	24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	
	29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	
60 ～69歳	16	45	1.0	52.4	53.4	30.6	7.2	2.3	9.5	6.6	43.9	
	20	37	4.5	42.8	47.3	37.0	9.9	2.7	12.6	3.1	34.7	
	24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	
	29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	
70歳 以上	16	55	6.3	52.5	58.8	23.6	5.3	4.3	9.6	8.0	49.2	
	20	47	7.9	46.3	54.2	30.4	8.8	4.0	12.8	2.6	41.4	
	24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	
	29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	

(注) 平成29年度より「18～19歳」の年齢層を追加。

エ 職業別による満足度

本調査における「職業別」とは、「自営業・家族従業者」（農林水産業、商工・サービス業、自由業）、「勤め人」（民間企業従業員、公務員など）、「その他」（学生、パート勤務を含む主婦・主夫、その他）をいう。職業別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-6のとおりである。

「自営業・家族従業者」「勤め人」「その他」の満足層の割合は、それぞれ49.3%、45.0%、50.0%であり、不満層の割合は、それぞれ11.6%、14.1%、11.0%となった。同様に満足度得点は、それぞれ44点、35点、49点であり、満足傾向は、37.7%、31.0%、39.0%である。前回の結果と比較すると、満足度得点、満足層の割合、満足傾向すべてにおいて増加している。

なお、「勤め人」の満足度は他の職業に比べて相対的に低い水準にあるが、これは過去3回の調査結果においても同様であることから、「勤め人」は他の職業と比べて満足度水準が低くなる傾向が確認できる。

図表 1-3-6 「生活全般」の満足度（職業別）

（単位：点、％）

職業	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
自営業・家族従業者	16	43	4.9	47.2	52.1	33.1	9.0	2.8	11.8	3.0	40.3	
	20	31	6.1	40.7	46.8	32.3	12.2	5.2	17.4	3.5	29.4	
	24	35	8.0	37.6	45.6	37.8	8.6	5.5	14.1	2.5	31.5	
	29	44	7.9	41.4	49.3	36.1	8.6	3.0	11.6	3.0	37.7	
勤め人	16	29	3.0	40.9	43.9	38.0	10.9	3.8	14.7	3.3	29.2	
	20	27	4.0	38.7	42.7	38.1	12.5	4.2	16.7	2.6	26.0	
	24	27	5.7	35.3	41.0	41.3	12.6	3.7	16.3	1.5	24.7	
	29	35	6.3	38.7	45.0	39.5	10.9	3.2	14.1	1.4	31.0	
その他	16	40	3.5	46.6	50.1	32.9	7.3	4.1	11.4	5.6	38.7	
	20	29	5.4	40.2	45.6	34.4	12.6	4.9	17.5	2.5	28.1	
	24	34	7.4	35.9	43.3	39.1	10.0	4.1	14.1	3.4	29.2	
	29	49	11.6	38.4	50.0	36.0	7.6	3.4	11.0	3.0	39.0	

オ 居住年数別及び県外居住経験別による満足度

図表1-3-7では、回答者の本県における居住年数を「5年未満」「5～10年未満」「10～20年未満」「20年以上」に区分し、また、県外での居住経験の「あり」「なし」で分け、それぞれの満足度を示している。

まず、満足層の割合について、大きい順に、「10～20年未満」（54.2%）、「5年未満」（53.6%）、「5～10年未満」（51.1%）、「20年以上」（47.1%）となっており、同様に、不満層の割合は「5年未満」（14.3%）、「20年以上」（12.8%）、「10～20年未満」（10.1%）、「5～10年未満」（2.2%）となっている。

なお、最もサンプル数の多い「20年以上」において前回と比較すると、満足度得点で9点、満足層の割合で4.0ポイント増加しているほか、満足傾向においても5.6ポイント増加していることから、全体的に県民の満足度水準は向上している。

次に、県外での「居住経験あり」「居住経験なし」の区分による満足度得点を見ると、「居住経験あり」が43点、「居住経験なし」は42点とほぼ同水準であり、満足層の割合や満足傾向についても、それぞれ3.4ポイント、3.1ポイントの差しかない。

図表1-3-7 「生活全般」の満足度（居住年数別・県外居住経験別）

(単位：点、%)

年数	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
5年 未満	16	31	5.9	38.2	44.1	32.4	14.7	2.9	17.6	5.9	26.5	
	20	58	9.1	54.5	63.6	21.2	15.2	-	15.2	-	48.4	
	24	14	8.6	28.6	37.2	42.9	8.6	11.4	20.0	-	17.2	
	29	43	7.1	46.4	53.6	32.1	10.7	3.6	14.3	-	39.3	
5～10 年未満	16	24	-	39.1	39.1	43.5	15.2	-	15.2	2.1	23.9	
	20	55	6.3	46.9	53.2	31.3	3.1	3.1	6.2	9.3	47.0	
	24	46	11.4	42.9	54.3	28.6	14.3	2.9	17.2	-	37.1	
	29	56	6.7	44.4	51.1	42.2	0.0	2.2	2.2	4.4	48.9	
10～20 年未満	16	28	-	43.0	43.0	39.1	10.9	2.3	13.2	4.7	29.8	
	20	24	6.0	35.1	41.1	36.6	13.4	5.2	18.6	3.7	22.5	
	24	28	12.4	25.6	38.0	41.3	11.6	5.8	17.4	3.3	20.6	
	29	52	9.5	44.6	54.2	33.9	7.1	3.0	10.1	1.8	44.0	
20年 以上	16	38	4.0	45.1	49.1	34.2	8.6	4.0	12.6	4.2	36.5	
	20	28	4.8	39.7	44.5	35.7	12.5	4.8	17.3	2.5	27.2	
	24	32	6.3	36.8	43.1	39.7	10.6	4.0	14.6	2.6	28.5	
	29	41	8.9	38.1	47.1	37.7	9.6	3.3	12.8	2.4	34.2	
県外 居住 経験	あり	16	34	2.6	44.9	47.5	35.4	9.5	3.9	13.4	3.7	34.1
		20	27	4.6	40.6	45.2	34.2	13.1	5.1	18.2	2.4	27.0
		24	34	7.9	35.1	43.0	40.5	10.3	4.0	14.3	2.3	28.7
		29	43	8.2	41.4	49.6	36.5	9.3	3.2	12.5	1.5	37.1
	なし	16	39	4.5	44.6	49.1	34.1	8.5	3.6	12.1	4.7	37.0
		20	30	5.4	38.8	44.2	36.7	11.7	4.3	16.0	3.1	28.2
		24	29	5.8	36.9	42.7	38.8	11.1	4.6	15.7	2.8	27.0
		29	42	9.6	36.6	46.2	38.3	8.9	3.2	12.2	3.4	34.0

カ まとめ

以上、過去3回の調査結果も含めて属性別の満足度について見てきたが、これらは次のとおり要約される。

第1に、県全体における満足度水準は向上しており、満足度得点は前回から11点増加している。地域別で見ても、すべての地域で満足度得点は増加しており、特に「峡北」(+18点)、「峡東」及び「峡南」(+21点)では大きく増加している。なお、最上位(「峡北」48点)と最下位(「富士・東部」34点)の開きは14点と前回(17点)から縮小しているものの、過去3回の最上位と最下位の開きの推移を見ると、拡大と縮小を繰り返していることから、今回の結果から地域差が縮小傾向にあるとまでは言えず、その推移について今後も注目していく必要がある。

第2に、性別で見た場合は、「男性」「女性」とともに満足度得点、満足層の割合、満足傾向は増加しており、過去の結果を含めて「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高いことが確認できる。ただし、「男性」が今回も含めてこれまで満足度得点の増加傾向にある一方、「女性」はこれまで減少傾向にあったものの今回増加に転じているなど、その傾向に違いがあることから、性別による明確な傾向を確認するためには、今後の推移に注目していく必要がある。

第3に、年齢別で見た場合、前回の結果との比較では、「70歳以上」(+29点)、「50代」(+24点)と、満足度得点が大幅に増加した年齢層がある一方、「20代」と「60代」では減少しているなど、年齢層によってばらつきが見られる。これは各年齢層の直面するライフステージが満足度水準に大きな影響を与えていることを示すと考えられる。

第4に、職業別で見た場合、「勤め人」の満足度水準が他の職業に比べて若干低い傾向にあるものの、全体的に満足度得点は増加しており、職業別による満足度水準の傾向に明確な違いを確認することは出来なかった。

第5に、県内への居住年数別及び県外居住経験別で見た場合、すべての居住年数層において満足度得点が増加しているほか、県外における「居住経験あり」「居住経験なし」においても、ともに満足度得点が増加していることから、これらの区分においても満足度水準の傾向に明確な違いを確認することは出来なかった。

4 「領域全般」の満足度

ここでは、図表1-1-1の左欄に示す「健康」「安全」「居住環境」「労働」「所得・消費」「教育・文化」「余暇」「福祉・連帯」の8領域について、満足度得点を用いた「領域全般」ごとの満足度の状況及び推移を見ていくこととする。

(1) 地域別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-1 満足度得点（地域別・領域全般別）

（単位：点）

地域 領域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部	最高値	最低値	最高と 最低差	差幅 動向
健 康	16	31	33	36	36	39	19	39	19	20	- 3
	20	18	25	21	27	19	0	27	0	27	
	24	31	38	23	43	26	12	43	12	31	
	29	43	51	23	50	41	31	51	23	28	
安 全	16	27	26	33	24	30	28	33	24	9	- 19
	20	22	22	22	31	23	17	31	17	14	
	24	33	37	34	40	6	26	40	6	34	
	29	45	50	43	39	35	44	50	35	15	
居住環境	16	41	48	46	34	40	33	48	33	15	- 8
	20	41	46	37	46	15	38	46	15	31	
	24	46	57	27	49	26	37	57	26	31	
	29	54	61	55	56	38	44	61	38	23	
勞 働	16	30	26	22	37	42	29	42	22	20	+ 9
	20	31	27	34	31	42	36	42	27	15	
	24	33	34	22	36	40	33	40	22	18	
	29	37	44	30	31	55	28	55	28	27	
所得・消費	16	4	1	14	-1	9	6	14	-1	15	+ 9
	20	-17	-14	-12	-22	-38	-16	-12	-38	26	
	24	-5	1	-14	-11	-7	-7	1	-14	15	
	29	15	18	28	12	4	11	28	4	24	
教育・文化	16	14	20	10	14	18	4	20	4	16	+ 3
	20	12	11	7	19	13	10	19	7	12	
	24	18	19	17	24	18	15	24	15	9	
	29	26	30	23	29	21	18	30	18	12	
余 暇	16	35	34	35	31	44	36	44	31	13	+ 12
	20	40	42	39	37	38	41	42	37	5	
	24	38	43	32	36	27	37	43	27	16	
	29	42	46	58	36	51	30	58	30	28	
福祉・連帯	16	7	5	3	0	42	7	42	0	42	+ 8
	20	-1	-4	-6	-14	19	6	19	-14	33	
	24	3	1	-4	6	20	0	20	-4	24	
	29	14	14	7	13	39	11	39	7	32	

（注） 色付きは最高点の地域と最低点の地域を示す。
「差幅動向」欄で、+ 値は前回よりも地域間格差が拡大、- 値は縮小の傾向を示す。

「全県」における各領域全般の5段階評価による満足度の割合及び満足層、不満層、満足傾向、不満傾向については、先の図表1-2-1のとおりであるが、図表1-4-1では、所定の算式(図表1-1-2)にしたがって得点化し、各領域全般において調査年度別、地域別に示した。

まず、「全県」において満足度得点の高い順にその領域を挙げると、1位は54点の「居住環境」、2位は45点の「安全」、3位は43点の「健康」、4位は42点の「余暇」、5位は37点の「労働」、6位は26点の「教育・文化」、7位は15点の「所得・消費」、8位は14点の「福祉・連帯」である。

前回順位と比べると、前回1位「居住環境」は今回変わらず、前回3位「安全」が今回2位に、前回5位「健康」が今回3位に、前回8位「所得・消費」が今回7位に上がった一方、前回2位「余暇」が今回4位に、前回3位「労働」が今回5位に、前回7位「福祉・連帯」が今回8位へと順位を下げている。

前回との得点比較では、すべての領域で増加しており、増加得点の大きい順に、「所得・消費」(+20点)、「健康」及び「安全」(+12点)、「福祉・連帯」(+11点)、「居住環境」及び「教育・文化」(+8点)、「労働」及び「余暇」(+4点)となっている。

次に、地域間で得点の開きが最も大きい領域は「福祉・連帯」であり、最上位(「峡南」39点)と最下位(「峡北」7点)の開きは32点であり、前回(24点)から8点増加している。一方、最も開きの小さい領域は「教育・文化」で、最上位(「峡中」30点)と最下位(「富士・東部」18点)の開きは12点で、前回(9点)から3点増加している。なお、他の領域における地域間の開きは、「余暇」で+12点、「安全」で-19点と2桁の増減が見られたほかは1桁の変化に留まっている。

(2) 地域別・領域全般別の満足度得点の対前回増減

次に、全県及び各地域における各領域全般の満足度得点の前回からの変化について、さらに子細に見てみる。図表1-4-2は、先の図表1-4-1に基づき、満足度得点の増減の度合いを示した一覧表である。

図表1-4-2 満足度得点对前回増減(地域別・領域全般別)

(単位：点)

地域 領域	全 県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部	増 点 地域数	減 点 地域数
健 康	12	13	0	7	15	19	4 (2)	0 (0)
安 全	12	13	9	-1	29	18	4 (2)	1 (0)
居住環境	8	4	28	7	12	7	5 (1)	0 (0)
労 働	4	10	8	-5	15	-5	3 (1)	2 (0)
所得・消費	20	17	42	23	11	18	5 (4)	0 (0)
教育・文化	8	11	6	5	3	3	5 (0)	0 (0)
余 暇	4	3	26	0	24	-7	3 (2)	1 (0)
福祉・連帯	11	13	11	7	19	11	5 (1)	0 (0)
増点領域数		8 (1)	7 (3)	5 (1)	8 (5)	6 (3)	34 (13)	
減点領域数		0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)		4 (0)

(注) 増減点 = 今回の得点 - 前回の得点。
色付きは最高点の地域と最低点の地域を示す。
()内は15点以上の増減の地域数、領域数。

「全県」ではすべての領域で満足度得点が増加しており、地域別における減点領域数、領域別における減点地域数が過半以上となっている地域、領域は無い。図表1-4-2の最右欄と最下欄にも示されるように、全体で40の地域・領域の区分中（5地域×8領域）、増加している地域・領域数は34、減点となった地域・領域数は4である（前回と変更なしは2）。

また、15点以上の増減があった地域・領域数については、図表1-4-2において（ ）内に示されるように、減点が0地域・領域である一方、増加は13地域・領域（峡中：「所得・消費」、峡北：「居住環境」「所得・消費」「余暇」、峡東：「所得・消費」、峡南：「健康」「安全」「労働」「余暇」「福祉・連帯」、富士・東部：「健康」「安全」「所得・消費」）に及んでいる。

地域別で見ると、「峡中」「峡南」ではすべての領域で増加している。「峡北」では増減の無かった「健康」を除いた他の7領域で増加しており、「峡東」「富士・東部」においても減点領域はそれぞれ2つずつと少ない。また、領域別では、「居住環境」「所得・消費」「教育・文化」「福祉・連帯」ではすべての地域で増加しており、すべての地域で減少した領域は無い。

なお、図表1-4-1、図表1-4-2から各地域及び各領域における満足度得点の特徴を見ると、次のとおりである。

〔地域別〕

峡中 …………… 「健康」「安全」「居住環境」「教育・文化」はそれぞれ51点、50点、61点、30点であり、他の地域と比べて最も高い満足度得点の領域となっている。特に「居住環境」は過去3回の調査を含めて一貫して最上位となっている。また、最下位となった領域は無い。前回との比較では「所得・消費」が17点増加している。

峡北 …………… 「所得・消費」（28点）、「余暇」（58点）において最上位の地域となっている一方、「健康」（23点）、「福祉・連帯」（7点）では最下位であり、ばらつきがある。前回との比較では「所得・消費」（+42点）、「居住環境」（+28点）、「余暇」（+26点）で大きく増加している。

峡東 …………… 地域別で唯一、最上位も最下位も無い平均的な結果となった。前回と比較すると、「所得・消費」で23点増加しているほかは、1桁の変化に留まっている。

峡南 …………… 「労働」（55点）、「福祉・連帯」（39点）で過去3回を含めて一貫して最上位となっているが、「安全」（35点）、「居住環境」（38点）、「所得・消費」（4点）で最下位とばらつきがある。前回との比較では、すべての領域で増加しており、特に「安全」（+29点）、「余暇」（+24点）、「福祉・連帯」（+19点）、「健康」及び「労働」（+15点）で大きく増加している。

富士・東部 …… 「労働」「教育・文化」「余暇」で最下位となったほか、前如同様、「全県」の満足度得点を上回った領域はない。ただし、前回との比較では、「健康」で19点、「安全」及び「所得・消費」で18点増加しており、他の地域と比較して満足度水準が低い状況ではあるものの、満足度得点は増加傾向にある。

〔領域別〕

- 健康 …… 最上位（「峡中」51点）と最下位（「峡北」23点）の開きは28点と比較的大きいが前回（31点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」で変化が無かった一方、「富士・東部」で19点、「峡南」で15点、「峡中」で13点、「峡東」で7点増加している。
- 安全 …… 最上位（「峡中」50点）と最下位（「峡南」35点）の開きは15点と前回（34点）よりも大きく縮小している。前回との比較では、「峡南」で29点、「富士・東部」で18点、「峡中」で13点、「峡北」で9点増加している一方、「峡東」では1点減少している。
- 居住環境 …… 最上位（「峡中」61点）と最下位（「峡南」38点）の開きは23点と前回（31点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」で28点、「峡南」で12点、「峡東」及び「富士・東部」で7点、「峡中」で4点増加と、すべての地域で増加している。
- 労働 …… 最上位（「峡南」55点）と最下位（「富士・東部」28点）の開きは27点と前回（18点）よりも拡大している。前回との比較では、「峡南」は+15点、「峡中」は+10点、「峡北」は+8点と増加している一方、「峡東」及び「富士・東部」では5点減少しており、地域によってばらつきのある領域となった。
- 所得・消費 …… 最上位（「峡北」28点）と最下位（「峡南」4点）の開きは24点と前回（15点）から拡大している。前回との比較では、「峡北」（+42点）、「峡東」（+23点）で大きく増加しているほか、「峡中」は+17点、「峡南」は+11点、「富士・東部」は+18点と、すべての地域で増加している。
- 教育・文化 …… 最上位（「峡中」30点）と最下位（「富士・東部」18点）の開きは12点と前回（9点）から拡大している。前回との比較ではすべての地域で増加しており、特に「峡中」で+11点と2桁増加している。
- 余暇 …… 最上位（「峡北」58点）と最下位（「富士・東部」30点）の開きは28点と前回（16点）よりも拡大している。前回との比較では、26点増加した「峡北」、24点増加した「峡南」と大きく増加した地域がある一方、「峡中」は3点増加、「峡東」は変化無し、「富士・東部」では7点減少するなど、地域によってばらつきがある。
- 福祉・連帯 …… 最上位（「峡南」39点）と最下位（「峡北」7点）の開きは32点と前回（24点）から拡大しており、その開きがすべての領域の中で最も大きい結果となった。前回との比較では、「峡南」（+19点）、「峡中」（+13点）、「峡北」及び「富士・東部」（+11点）、「峡東」（+7点）とすべての地域で満足度得点が増加している。

(3) 属性別・領域全般別の満足度得点

次に、性別、年齢別、県外居住経験別による満足度得点とその傾向を見ていく。

ア 性別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-3は、各領域全般の満足度得点を性別で整理したものである。その得点を比較すると、「余暇」で「女性」(41点)より「男性」(43点)が高かったほかは、すべての領域で「女性」が「男性」より高くなっており、特に「所得・消費」(13点)、「労働」(10点)ではその得点差が2桁となっている。

前回との比較では、「男性」の「労働」において変化が無かった以外、すべての領域で増加しており、とりわけ「所得・消費」は「男性」+14点、「女性」+27点と大きく増加している。

図表1-4-3 満足度得点(性別・領域全般別)

(単位:点)

領域	性別	年度	男性	女性	得点差	対前回増減	
						男性	女性
健康		16	31	31	0		
		20	15	21	6		
		24	29	32	3		
		29	40	47	7 (+4)	+11	+15
安全		16	28	26	2		
		20	21	23	2		
		24	35	30	5		
		29	44	47	3 (-2)	+9	+17
居住環境		16	43	39	4		
		20	38	44	6		
		24	44	48	4		
		29	50	59	9 (+5)	+6	+11
労働		16	27	32	5		
		20	21	42	21		
		24	33	34	1		
		29	33	43	10 (+9)	±0	+9
所得・消費		16	0	7	7		
		20	-27	-9	18		
		24	-5	-5	0		
		29	9	22	13 (+13)	+14	+27
教育・文化		16	8	21	13		
		20	7	16	9		
		24	16	21	5		
		29	23	29	6 (+1)	+7	+8
余暇		16	37	33	4		
		20	36	44	8		
		24	39	37	2		
		29	43	41	2 (±0)	+4	+4
福祉・連帯		16	3	12	9		
		20	-9	5	14		
		24	3	2	1		
		29	12	17	5 (+4)	+9	+15

(注) 「得点差」欄の()内で、+値は前回よりも性別間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

イ 年齢別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-4は、年齢別の満足度得点を示したものである。前回との比較を踏まえて概観すると、次のとおりである。

なお、「18～19歳」については今回調査から追加された年齢層であり、図表1-4-4の最右欄にある「最高と最低差」の経年比較においては、前回までの調査に含まれていないこの年齢層を除外して行うこととする。

第1に、年齢別で見ると、「18～19歳」が「労働」を除くすべての領域において最上位を占めており、「70歳以上」も「労働」で最上位、「所得・消費」を除く6領域で次点となるなど比較的満足度水準の高い年齢層となった。一方、「60代」は3領域で最下位となるなどすべての年齢層の中で最も最下位領域が多くなっており、「60代」と「70歳以上」の間に大きな差がある。

第2に、領域別で見ると、「健康」及び「安全」は「18～19歳」が最上位となり、次いで「70歳以上」「20代」と続いている。他の年齢層では、「30代」を底に年齢層が上がるほど満足度得点が上昇している。「居住環境」は「18～19歳」及び「70歳以上」の得点が比較的高く、それ以外の年齢層でも他の領域より高い水準の満足度得点となっている。「労働」では「20代」「30代」の満足度得点が比較的低くなっており、「18～19歳」及び「40代」「50代」「60代」では同一水準、「70歳以上」が最上位となっている。「所得・消費」は「18～19歳」の満足度得点が特に高い一方、「40代」「50代」「60代」の満足度得点が他の年齢層に比べて低くなっている。「教育・文化」では、「18～19歳」の満足度得点が比較的高い一方、「60代」の満足度得点の低さが際立っており、それ以外の年齢層では一定の水準となっている。「余暇」では最上位である「18～19歳」及び次点の「70歳以上」を除くと、すべての年齢層で同一水準となっている。「福祉・連帯」では「18～19歳」が最上位、次いで「70歳以上」が高得点となっているものの、他の年齢層では低水準となっている。

第3に、前回との比較で見ると、「70歳以上」「50代」はすべての領域において増加している一方、「60代」では6領域で、「20代」「30代」では2領域で、「40代」では1領域で減点となっているなど、年齢層で傾向の違いが確認できる。特に「70歳以上」と「60代」の間における傾向の違いが顕著となっている。

第4に、領域ごとに年齢層間における最高と最低の得点差に着目して見ると、「所得・消費」(-11点)、「居住環境」(-3点)を除いた他の領域において得点差が拡大しており、「労働」で+30点、「福祉・連帯」で+19点、「余暇」で+18点、「健康」で+16点、「教育・文化」で+10点、「安全」で+4点となっている。

図表1-4-4 満足度得点（年齢別・領域全般別）

（単位：点）

領域	年齢	年度	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	最高と最低差
健康		16	-	9	19	17	32	44	63	54
		20	-	11	-2	0	16	27	65	67
		24	-	31	15	20	16	47	49	34
		29	111	50	20	32	34	41	70	50
		差	-	19	5	12	18	-6	21	(+ 16)
安全		16	-	17	11	25	29	38	44	33
		20	-	31	9	5	20	29	49	44
		24	-	36	31	26	17	46	41	29
		29	100	55	33	34	35	43	66	33
		差	-	19	2	8	18	-3	25	(+ 4)
居住環境		16	-	28	32	34	45	51	56	28
		20	-	39	28	23	47	45	69	46
		24	-	29	46	50	35	59	47	30
		29	86	51	47	46	54	48	73	27
		差	-	22	1	-4	19	-11	26	(- 3)
労働		16	-	3	27	25	36	46	50	47
		20	-	31	16	19	40	45	46	30
		24	-	28	30	37	26	40	39	14
		29	38	17	29	40	38	41	61	44
		差	-	-11	-1	3	12	1	22	(+ 30)
所得・消費		16	-	13	10	-11	-4	3	14	25
		20	-	9	-25	-31	-27	-14	-5	40
		24	-	25	12	-3	-15	-14	-13	40
		29	78	27	24	8	15	-2	21	29
		差	-	2	12	11	30	12	34	(- 11)
教育・文化		16	-	7	15	4	7	23	33	29
		20	-	8	9	2	13	12	35	33
		24	-	23	27	9	20	14	27	18
		29	97	34	23	29	21	8	36	28
		差	-	11	-4	20	1	-6	9	(+ 10)
余暇		16	-	30	24	14	36	47	63	49
		20	-	51	33	12	35	60	62	50
		24	-	43	37	26	23	51	53	30
		29	83	30	37	32	34	38	78	48
		差	-	-13	±0	6	11	-13	25	(+ 18)
福祉・連帯		16	-	-7	-4	-9	7	19	33	42
		20	-	-12	-9	-19	-5	3	37	56
		24	-	4	-3	2	-6	1	19	25
		29	100	16	2	5	16	-3	41	44
		差	-	12	5	3	22	-4	22	(+ 19)

（注） 「最高と最低差」欄では、平成29年度から追加された「18～19歳」を含まずに算出。
「最高と最低差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも年齢層間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

ウ 県外居住経験別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-5は、県外居住経験別による各領域の満足度得点を示したものである。

県外での「居住経験なし」の層の県民は、すなわち、山梨県で生まれ、育ち、そして現在も山梨県で暮らしている人々であることから、この層の満足度得点を経年で見ていくことで、定点観測的に本県の生活満足度の推移を評価することができると考えられる。

一方、県外での「居住経験あり」の層は、たとえば、山梨県で生まれ、育ち、いったん他の都道府県で暮らし、再び山梨県に戻って暮らすというケースや、他の都道府県で生まれ、育ち、そして、現在は山梨県で暮らしているというケースなどが考えられる。

ゆえに、「居住経験あり」の層は、他の都道府県と本県とを比較する視点をもって客観的な満足度評価を行いやすい人々と言えるため、この層の満足度得点の推移を見ていくことは、本県における生活の満足度を他地域との関係で相対的に評価するのに有用と考えられる。

今回、「居住経験なし」が「居住経験あり」と比べて高得点となっているのは、得点差の大きい順に、「福祉・連帯」(+14点)、「健康」及び「居住環境」(+9点)、「安全」(+8点)、「教育・文化」(+5点)の5領域であった。一方、「居住経験あり」がより高得点となっているのは、「労働」及び「所得・消費」(+9点)、「余暇」(+6点)の3領域である。

前回との比較では、「居住環境」における「居住経験あり」が6点減点となった以外は、すべての領域で増加しており、とりわけ「所得・消費」では「居住経験あり」で+24点、「居住経験なし」で+15点と大幅に増加している。

図表1-4-5 満足度得点（県外居住経験別・領域全般別）

（単位：点）

領域	属性 年度	県外居住経験		得点差	対前回増減	
		あ り	な し		あ り	な し
健 康	16	27	35	8	+ 12	+ 14
	20	13	24	11		
	24	27	34	7		
	29	39	48	9 (+ 2)		
安 全	16	23	31	8	+ 7	+ 20
	20	20	25	5		
	24	35	30	5		
	29	42	50	8 (+ 3)		
居住環境	16	38	44	6	- 6	+ 1
	20	36	46	10		
	24	45	47	2		
	29	39	48	9 (+ 7)		
労 働	16	31	29	2	+ 5	+ 3
	20	29	34	5		
	24	37	30	7		
	29	42	33	9 (+ 2)		
所得・消費	16	4	4	0	+ 24	+ 15
	20	-18	-17	1		
	24	-5	-5	0		
	29	19	10	9 (+ 9)		
教育・文化	16	9	19	10	+ 5	+ 9
	20	6	17	11		
	24	18	19	1		
	29	23	28	5 (+ 4)		
余 暇	16	33	37	4	+ 7	+ 1
	20	38	43	5		
	24	38	38	0		
	29	45	39	6 (+ 6)		
福祉・連帯	16	-1	16	17	+ 6	+ 19
	20	-6	3	9		
	24	2	3	1		
	29	8	22	14 (+ 13)		

（注） 「得点差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも県外居住経験の「あり」「なし」間の格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

エ まとめ

以上、属性別に「領域全般」の満足度得点について見てきたが、要約すると次のとおりである。

第1に、性別については、前回との比較において概ね増加しており、特に「余暇」を除いたすべての領域において「男性」より「女性」の増加得点が多く、より高得点となっている。

第2に、年齢別については「18～19歳」が最上位、次いで「70歳以上」という領域が多い一方、「60代」では最下位領域が最多となることから、「60代」と「70歳以上」の間に大きな差がある。

第3に、県外居住経験の有無については、「居住環境」において「居住経験あり」の満足度得点が減少した以外はすべて前回より増加している。

5 「個別項目」の満足度

本調査における「個別項目」とは、8つの領域について、それぞれの領域を代表すると想定されるいくつかの具体的な項目のことである。たとえば、健康領域における個別項目とは、「日常医療」、「救急医療」、「検診・相談」の3つの項目をいう。以下、全県及び地域別に算出した満足度得点の結果を見ながら、その特徴を概観する。

なお、各領域全般の満足度得点については既述のとおりであるが、参考として、以下の各図表の最下欄に再掲しておく。

(1) 健康領域

健康領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-1に示すとおりである。

まず、「全県」について見ると、いずれの項目も前回より増加しており、「日常医療」「救急医療」は12点、「検診・相談」は6点増加している。なお、「救急医療」は前回調査まではマイナスとなっていたが、今回プラスへと転じている。

次に、各個別項目ごとに地域別で見ると、次のとおりである。

「日常医療」は、「峡中」が最上位で77点、「峡北」が最下位で36点、その開きは41点と大きいものの、前回(61点)からは縮小している。前回の結果との比較では、減少した「峡北」(-4点)のほかは、「富士・東部」(+30点)で大幅に増加したほか、「峡南」(+14点)、「峡中」(+10点)、「峡東」(+2点)でも増加している。

「救急医療」は、「峡中」が最上位で27点、「峡北」が最下位で-33点、その開き(60点)は大きく、前回(46点)より拡大している。満足度得点において地域差が確認でき、最上位の「峡中」及び「峡東」(24点)はプラスである一方、最下位の「峡北」に加え、「富士・東部」(-20点)、「峡南」(-18点)はマイナスとなっている。特に、「峡北」「峡南」「富士・東部」は過去3回の調査を含め一貫して満足度得点がマイナスとなっている。

「検診・相談」は、最上位の「峡南」(51点)と最下位の「峡北」(18点)の開きは33点と、前回(22点)から11点拡大している。各地域とも概ね増加しているなか、「峡北」(-22点)が大幅に減少していることが、地域差の拡大として表れている。

「健康領域」について概観すると、日常生活に身近である「日常医療」及び「検診・相談」については全体的に満足度水準が上昇している一方、「救急医療」では、すべての地域において満足度得点は前回から上昇しているものの、プラスの地域とマイナスの地域があるなど、地域差が表れている項目となっている。

図表1-5-1 満足度得点（地域別・健康領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
日常医療	16	49	65	41	56	35	23
	20	45	66	36	55	23	11
	24	49	67	40	71	25	10
	29	61	77	36	73	39	40
	差	12	10	-4	2	14	30
救急医療	16	-10	-3	-6	-9	-11	-26
	20	-22	-10	-29	-9	-40	-43
	24	-6	11	-35	9	-27	-30
	29	6	27	-33	24	-18	-20
	差	12	16	2	15	9	10
検診・相談	16	46	38	57	56	76	37
	20	26	21	28	34	44	24
	24	35	37	40	38	47	25
	29	41	46	18	47	51	35
	差	6	9	-22	9	4	10
健康全般	16	31	33	36	36	39	19
	20	18	25	21	27	19	0
	24	31	38	23	43	26	12
	29	43	51	23	50	41	31
	差	12	13	± 0	7	15	19

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(2) 安全領域

安全領域における3つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-2のとおりである。

まず、「全県」ではいずれの項目も満足度得点はプラスとなっており、前回と比較してもすべての項目で増加している。なお、「交通安全」及び「防犯・防火」は過去3回を含めて一貫して増加している。

次に、各個別項目を地域別に見ていくと次のとおりである。

「交通安全」については、最上位は「富士・東部」(22点)、最下位が「峡東」(10点)で、その開きは12点となっている。前回と比べると「峡東」で1点減少しているほかは増加しており、特に「富士・東部」(+17点)、「峡北」(+16点)では2桁の増加となっている。

「防犯・防火」については、最上位は「富士・東部」(41点)、最下位は「峡南」(33点)で、その開きは8点と前回(17点)から縮小しており、各地域で同水準の満足度得点となっている。前回との比較では、前回最上位であった「峡東」で5点減少した一方、「富士・東部」(+14点)、「峡中」(+13点)では2桁増加するなど、地域によってばらつきが出ている。

「自然災害」では、「峡中」(31点)が最上位、「峡南」(-15点)が最下位となり、その開きは46点と大きい。前回との比較では、「富士・東部」で15点増加した一方、「峡東」(-15点)では減少しており、地域でばらつきが見られる。特に「峡南」では、今回6点増加しているものの、過去3回を含めて一貫してマイナスとなっており、満足度得点が低い水準の地域となっている。

「安全領域」について概観すると、比較的日常生活に身近な「交通安全」や「防犯・防火」では、満足度得点における地域差がそれほど大きくない一方、地理的条件の影響が大きい「自然災害」では、地域差が大きい状況となっている。

図表1-5-2 満足度得点（地域別・安全領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
交通安全	16	-7	-15	-13	0	21	-4
	20	-3	-11	-8	5	23	0
	24	6	5	3	11	6	5
	29	16	14	19	10	15	22
	差	10	9	16	-1	9	17
防犯・防火	16	16	8	40	15	26	17
	20	23	15	31	29	42	25
	24	28	24	29	41	31	27
	29	38	37	38	36	33	41
	差	10	13	9	-5	2	14
自然災害	16	11	10	32	16	-13	9
	20	3	6	9	11	-14	-5
	24	13	24	19	25	-21	-7
	29	17	31	15	10	-15	8
	差	4	7	-4	-15	6	15
安全全般	16	27	26	33	24	30	28
	20	22	22	22	31	23	17
	24	33	37	34	40	6	26
	29	45	50	43	39	35	44
	差	12	13	9	-1	29	18

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(3) 居住環境領域

居住環境を表す要素は多種多様であるため、この領域内の個別項目は8項目あり、最も項目数の多い領域となっている。これらの地域別の満足度得点は図表1-5-3のとおりである。

まず、「全県」における各項目の満足度得点を高い順に示すと、「住宅」(82点)、「自然環境」(81点)、「ごみ・生活排水」(56点)、「大気汚染等」(43点)、「買い物」(26点)、「公園広場等」(15点)、「道路」(-2点)、「公共交通機関」(-69点)となり、各項目間における得点差が顕著である。

前回調査との比較では、「公共交通機関」で10点減点となったのを除けば、すべての項目で満足度得点は増加しており、特に「大気汚染等」(+18点)、「公園広場等」(+14点)、「ごみ・生活排水」(+12点)、「住宅」(+11点)では2桁の増加となっている。

過去3回の調査を含めた推移を見ると、「自然環境」「ごみ・生活排水」「住宅」「買い物」の4項目では一貫して満足度得点がプラスとなっており、特に「自然環境」「住宅」では高水準となっている。一方、「公共交通機関」「道路」の2項目は一貫してマイナスとなっており、特に「公共交通機関」ではその不満傾向が非常に強い状況が続いている。なお、前回または前々回でプラスに転じた「大気汚染等」「公園広場等」は満足度得点の増加傾向が続いている。

次に、これらの項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自然環境」は、すべての地域で非常に高い水準となっており、最上位の「峡北」(101点)と最下位の「峡南」(67点)の開きは34点と、前回(25点)から拡大している。前回との比較では、すべての地域で増加しており、特に「峡北」では26点増加して100点を超える結果となった。

「大気汚染等」は、最上位の「峡北」(59点)と最下位の「峡東」(35点)の開きは24点と、前回(19点)から地域差が拡大している。前回との比較では、すべての地域で14点~21点の範囲で増加しており、全体的に安定した満足度水準の上昇傾向にある。

「公園広場等」は、最上位である「峡中」の31点に対し、最下位は「富士・東部」で-16点であり、その開きは47点と大きいものの、前回(45点)から大きく変化しているわけではない。前回との比較では、「峡北」で1点減少した以外はすべての地域で増加しており、特に「峡南」(+27点)、「峡東」(+21点)では大きく増加している。

「ごみ・生活排水」は、最上位の「峡南」(66点)と最下位の「峡東」(45点)の開きは21点と、前回(15点)から拡大しているものの、すべての地域で安定した満足度得点が得られている。前回との比較でも、すべての地域で満足度得点が増加しており、「大気汚染等」と同様に、安定的な上昇傾向にある。

「住宅」は、すべての地域で高い満足度水準となっているが、最上位の「峡北」及び「峡南」(94点)と、最下位の「峡東」(70点)の開きは24点と前回(19点)から拡大している。前回の結果と比較すると、「峡中」で20点、「峡北」及び「峡南」で11点、「富士・東部」で3点増加した一方、「峡東」では4点減少しており、満足度得点の増減にばらつきがある。

図表1-5-3 満足度得点（地域別・居住環境領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
自然環境	16	47	43	63	45	56	48
	20	59	55	61	55	72	65
	24	72	71	75	74	52	77
	29	81	77	101	76	67	88
	差	9	6	26	2	15	11
大気汚染等	16	-5	-16	7	-6	26	2
	20	12	11	23	11	30	5
	24	25	23	40	21	35	22
	29	43	41	59	35	54	43
	差	18	18	19	14	19	21
公園広場等	16	-17	0	-31	-19	-27	-36
	20	-3	6	-11	11	-8	-25
	24	1	17	5	4	-18	-28
	29	15	31	4	25	9	-16
	差	14	14	-1	21	27	12
ごみ・ 生活排水	16	35	43	33	20	60	25
	20	33	39	37	24	19	30
	24	44	51	44	37	42	36
	29	56	63	54	45	66	50
	差	12	12	10	8	24	14
住 宅	16	57	50	85	56	62	56
	20	65	58	79	74	58	68
	24	71	64	83	74	83	74
	29	82	84	94	70	94	77
	差	11	20	11	-4	11	3
公共交通 機 関	16	-58	-54	-64	-62	-59	-60
	20	-74	-70	-99	-85	-84	-63
	24	-59	-50	-77	-58	-88	-62
	29	-69	-63	-73	-75	-88	-68
	差	-10	-13	4	-17	±0	-6
道 路	16	-12	-5	0	-22	-18	-21
	20	-10	-2	-9	-4	-19	-24
	24	-10	2	-18	-7	-28	-26
	29	-2	4	-18	4	3	-12
	差	8	2	±0	11	31	14
買 い 物	16	27	53	21	15	-13	5
	20	19	41	-21	38	-34	-1
	24	21	53	-21	24	-32	-10
	29	26	47	-11	32	-17	6
	差	5	-6	10	8	15	16
居住環境 全 般	16	41	48	46	34	40	33
	20	41	46	37	46	15	38
	24	46	57	27	49	26	37
	29	54	61	55	56	38	44
	差	8	4	28	7	12	7

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

「公共交通機関」は、すべての地域で満足度得点がマイナスであり、不満傾向も強く表れている。最上位の「峡中」（-63点）と最下位の「峡南」（-88点）の開きは25点と、前回（38点）から縮小しているものの、「峡北」（+4点）や「峡南」（±0点）で前回水準が維持されているほかは、「峡東」（-17点）、「峡中」（-13点）、「富士・東部」（-6点）では更に不満傾向が強まっており、早急な対策を講じる必要性が高い項目と考えられる。

「道路」は、最上位が「峡中」及び「峡東」の4点、最下位が「峡北」の-18点であり、地域間の開きは22点と前回（30点）から縮小している。前回の結果との比較では、「峡南」で+31点と大幅に増加するなど、変化の無かった「峡北」を除いて、増加傾向にある。ただし、過去3回を含めた推移を見ると、前回まで一貫して満足度得点がマイナスであった「峡東」及び「峡南」がプラスとなったが、「峡北」では前々回以降、「富士・東部」では過去3回を含めて一貫してマイナスのままであり、地域における回答傾向の違いが明らかとなっている。

「買い物」は、最上位の「峡中」（47点）と最下位の「峡南」（-17点）の差は64点と非常に大きく、居住環境領域において最も地域差の大きい項目となったが、前々回（75点）、前回（85点）からの推移を見れば、地域差が縮小傾向にあることが分かる。前回の結果との比較では、最上位の「峡中」で6点減少したほかは、すべての地域で増加している。過去3回を含めた推移を見ると、「峡中」と「峡東」では比較的安定した満足度得点を維持している一方、「峡北」では前々回から3回連続、「峡南」では一貫してマイナスとなっており、今回プラスに転じた「富士・東部」も含めて、地域によって回答傾向に明らかな違いがある。

「居住環境領域」について概観すると、すべての領域の各項目の中で最も高い水準にある「自然環境」や「住宅」では過去3回の調査を含めて一貫して高い満足度水準となっており、「ごみ・生活排水」といった日常生活を取り巻く環境についても比較的高水準が維持されている。

逆に「公共交通機関」では、全項目中で最低水準の満足度得点となっており早急な対策が必要とされている項目と考えられる。

（４）労働領域

労働領域における3つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-4のとおりである。

まず、「全県」について見ると、過去3回の調査において満足度得点がマイナスであった「就職の機会」及び「労働条件」がプラスに転じたことにより、今回はすべての項目についてプラスとなった。前回の結果との比較では、「就職の機会」（+13点）、「労働条件」（+9点）、「仕事のやりがい」（+2点）とすべての項目で増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「就職の機会」は、最上位の「峡中」（9点）、最下位の「峡南」及び「富士・東部」（-11点）の開きは20点と前回（33点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（-9点）を除いた地域で増加しており、特に「峡北」（+39点）、「峡中」（+19点）では大きく増加している。

「労働条件」は、最上位である「峡南」（25点）と、最下位の「峡東」（-4点）の開きは29点と、前回（11点）よりも拡大している。前回の結果と比較すると、今回マイナスに転じた「峡東」（-6点）や、前回と変化がなく過去3回含めて一貫してマイナスのままである「富士・東部」など不満傾向の強い地域がある一方、「峡南」（+32点）、「峡北」（+21点）、「峡中」（+13点）と2桁の増加を示した地域もあり、地域における回答傾向の違いが顕著となっている。

「仕事のやりがい」は、最上位の「峡南」（55点）と最下位の「峡北」（36点）の開きは19点と、前回（27点）より縮小している。過去3回を含めた推移を見ても、全体的に安定的な満足度得点となっている。

「労働領域」について概観すると、「仕事のやりがい」は過去の調査から一貫して安定した満足度水準を維持しているほか、これまで不満傾向が強かった「就職の機会」や「労働条件」が今回、満足傾向に転じるなど、「労働領域」における満足度水準は上昇傾向にあることが明らかとなった。

図表1-5-4 満足度得点（地域別・労働領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
就職の機会	16	-21	-13	-22	-28	-21	-31
	20	-18	-11	-16	-13	-22	-33
	24	-12	-10	-35	-2	-2	-19
	29	1	9	4	3	-11	-11
	差	13	19	39	5	-9	8
労働条件	16	-3	0	-14	-12	13	-2
	20	-4	2	-20	-5	-4	-8
	24	-2	-1	-9	2	-7	-2
	29	7	12	12	-4	25	-2
	差	9	13	21	-6	32	±0
仕事のやりがい	16	39	35	37	42	51	40
	20	41	35	38	41	58	48
	24	42	45	24	40	51	40
	29	44	48	36	41	55	38
	差	2	3	12	1	4	-2
労働全般	16	30	26	22	37	42	29
	20	31	27	34	31	42	36
	24	33	34	22	36	40	33
	29	37	44	30	31	55	28
	差	4	10	8	-5	15	-5

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(5) 所得・消費領域

所得・消費領域における4つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-5のとおりである。

「全県」では、「消費」が6点とプラスとなっているほかは、「物価」(-62点)、「資産」(-21点)、「所得」(-15点)と、全体的にマイナスとなっている項目が多い。ただし、前回と比較するとすべての項目で増加しており、不満傾向は緩和している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「所得」は、過去3回を含めてすべての地域でマイナスとなっている。最上位の「峡北」(-7点)と最下位の「峡南」(-32点)の開きは25点と、前回(11点)より拡大しているものの、前回の結果との比較では、「峡北」(+36点)など、すべての地域で増加しており、不満傾向は改善されつつある。

「資産」は、すべての地域でマイナスとなり、最上位の「峡北」(-15点)と最下位の「峡南」(-42点)の開きは27点と、前回(6点)から大きく拡大している。前回と比較すると、「峡南」を除くすべての地域で増加している。

「消費」は、最上位の「峡中」及び「峡東」(15点)と最下位の「峡北」(-12点)の開きは27点と、前回(31点)から縮小している。前回の結果との比較では概ね増加しているものの、「峡北」だけが-21点と大幅に減少している。

「物価」は、過去3回の調査と同様、すべての地域で大きなマイナスとなった。最上位の「峡北」(-52点)と最下位の「峡南」(-85点)の開きは33点と、前回(27点)から拡大している。ただし、この項目は不満傾向が強く表れているものの、前回の結果との比較では、すべての地域で増加しており、その満足度水準は改善傾向にある。

「所得・消費領域」について概観すると、「物価」をはじめ、「所得」、「資産」といった家計の基本となる項目で過去3回を含めて、すべての地域で一貫してマイナスとなるなど不満傾向が強い状況が続いているものの、前回からの推移を見れば、満足度得点は増加傾向にあることが分かる。

図表1-5-5 満足度得点（地域別・所得消費領域）

（単位：点）

項目 \ 地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
所得	16	-36	-36	-24	-42	-35	-36
	20	-37	-37	-40	-39	-49	-33
	24	-36	-32	-43	-40	-35	-38
	29	-15	-11	-7	-26	-32	-11
	差	21	21	36	14	3	27
資産	16	-36	-35	-34	-44	-48	-28
	20	-45	-45	-46	-50	-43	-42
	24	-38	-36	-38	-41	-35	-41
	29	-21	-16	-15	-24	-42	-24
	差	17	20	23	17	-7	17
消費	16	9	24	3	-1	0	-6
	20	-1	7	-4	4	-32	-8
	24	5	14	9	13	-17	-13
	29	6	15	-12	15	-8	-5
	差	1	1	-21	2	9	8
物価	16	-69	-66	-70	-77	-69	-66
	20	-153	-152	-157	-151	-160	-152
	24	-71	-61	-65	-85	-88	-76
	29	-62	-59	-52	-67	-85	-63
	差	9	2	13	18	3	13
所得・消費 全	16	4	1	14	-1	9	6
	20	-17	-14	-12	-22	-38	-16
	24	-5	1	-14	-11	-7	-7
	29	15	18	28	12	4	11
	差	20	17	42	23	11	18

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(6) 教育・文化領域

教育・文化領域の個別項目数は7つあり、居住環境領域に次いで項目数が多くなっている。これらの満足度得点は、図表1-5-6に示すとおりである。

まず、「全県」について見ると、満足度得点の高い順に、「文化施設」(32点)、「幼稚園・保育所」及び「文化財・伝統継承」(31点)、「小中高の教育」(22点)、「生涯学習」(5点)、「家庭教育」(-6点)、「高等教育の機会」(-22点)となっている。前回との比較では、すべての項目で増加しており、特に「家庭教育」(+23点)、「小中高の教育」(+22点)で2桁増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「幼稚園・保育所」は、最上位の「峡中」(42点)と最下位の「峡南」及び「富士・東部」(19点)の開きは23点と前回(29点)から縮小している。前回の結果との比較では、「峡北」(+17点)、「峡中」(+12点)で増加している一方、「峡東」(-15点)、「峡南」及び「富士・東部」(-9点)では減少しており、その回答傾向には地域差がある。

「小中高の教育」は、最上位の「峡北」(34点)と最下位の「富士・東部」(17点)の開きは17点と、前回(30点)から縮小している。前回の結果との比較では、「峡北」(+42点)で大幅に増加したほか、多くの地域で増加しているものの、「峡東」だけが-3点と減少している。

「高等教育の機会」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡南」(-16点)と最下位の「富士・東部」(-28点)の開きは12点と、前回(28点)から縮小している。ただし、前回の結果との比較では、6点減少した「峡東」を除いたすべての地域で満足度得点が増加しており、過去3回の調査も含めて見ると、不満傾向は緩和している。

「家庭教育」は、最上位の「峡南」(15点)と最下位の「峡東」(-16点)の開きは31点と、前回(18点)から拡大しており、最上位の「峡南」を除くすべての地域でマイナスとなるなど、不満傾向が表れている項目となっている。ただし、前回の結果との比較では、「峡南」(+52点)、「峡北」(+29点)、「峡中」(+27点)で大きく増加したほか、「富士・東部」(+18点)、「峡東」(+7点)でも増加しており、満足度水準が上昇傾向にある。

「生涯学習」は、最上位である「峡南」(11点)と最下位である「峡北」(4点)の開きは7点と、前回(22点)から縮小している。前回の結果との比較では、「峡東」(-1点)を除くすべての地域で増加している。

「文化施設」は、最上位の「峡中」(43点)と最下位の「富士・東部」(6点)の開きは37点と、前回(40点)から縮小している。前回の結果との比較では、すべての地域において増加しているものの、今回の結果では「峡中」「峡北」「峡東」が40点以上となった一方、「峡南」「富士・東部」では1桁台に留まっており、地域差が顕著に表れている。

「文化財・伝統継承」は、最上位の「峡東」(37点)と最下位の「峡中」「峡南」(28点)の開きは9点と前回(14点)から縮小している。前回の結果との比較でも、すべての地域で増加しており、満足度水準が安定している項目となっている。

「教育・文化領域」について概観すると、教育関連では「幼稚園・保育所」「小中高の教育」など、基礎的教育関係の項目で一定の満足度水準が維持されている一方、「高等教育の機会」「家庭教育」などでは不満傾向が続いている。ただし、「峡東」では「幼稚園・保育所」「小中高の教育」においても満足度得点が前回から減少しているため、今後も注目して行く必要がある。なお、文化関連では、「文化施設」「文化財・伝統継承」ともに過去から安定した満足度水準が維持されている。

図表1-5-6 満足度得点（地域別・教育文化領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
幼稚園・ 保育所	16	39	41	30	41	38	37
	20	35	32	38	30	9	49
	24	30	30	14	43	28	28
	29	31	42	31	28	19	19
	差	1	12	17	-15	-9	-9
小中高の 教 育	16	-1	-8	3	2	11	1
	20	-1	-7	12	1	2	4
	24	0	-1	-8	21	0	-9
	29	22	24	34	18	21	17
	差	22	25	42	-3	21	26
高等教育の 機 会	16	-34	-31	-36	-26	-26	-46
	20	-33	-32	-39	-27	-54	-32
	24	-29	-28	-30	-14	-21	-42
	29	-22	-20	-21	-20	-16	-28
	差	7	8	9	-6	5	14
家庭教育	16	-35	-38	-31	-33	-27	-35
	20	-41	-44	-34	-31	-60	-39
	24	-29	-34	-38	-23	-37	-20
	29	-6	-7	-9	-16	15	-2
	差	23	27	29	7	52	18
生涯学習	16	-5	3	-11	-4	8	-21
	20	-3	-2	-5	-7	-5	0
	24	-1	4	-2	7	0	-15
	29	5	5	4	6	11	5
	差	6	1	6	-1	11	20
文化施設	16	13	42	-5	1	-8	-22
	20	19	31	22	30	1	-9
	24	27	41	29	34	7	1
	29	32	43	41	40	9	6
	差	5	2	12	6	2	5
文化財・ 伝統継承	16	22	27	17	17	22	19
	20	18	9	28	23	12	30
	24	24	25	17	28	14	23
	29	31	28	33	37	28	31
	差	7	3	16	9	14	8
教育・文化 全 般	16	14	20	10	14	18	4
	20	12	11	7	19	13	10
	24	18	19	17	24	18	15
	29	26	30	23	29	21	18
	差	8	11	6	5	3	3

（注） 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(7) 余暇領域

余暇領域の個別項目数は5つあり、各項目の満足度得点は、図表1-5-7に示すとおりである。

「全県」では、「自由時間」及び「自然と親しむ機会」がプラスである一方、「余暇施設」「娯楽」「余暇情報」はマイナスとなっている。前回との比較では、増加した項目（「自由時間」「余暇施設」「自然と親しむ機会」）と、前回から変化の無い「余暇情報」、-10点と減少した「娯楽」など、項目によってばらつきのある結果となっている。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自由時間」は、いずれの地域もプラスとなっており、最上位の「峡北」（57点）と最下位の「峡東」（22点）の開きは35点と大きく、前回（19点）から拡大している。前回の結果との比較では、満足度得点が増加している地域が多い中、「峡東」だけ4点減少している。

「余暇施設」は、最上位の「峡中」（12点）を除いた地域でマイナスとなっており、最下位の「富士・東部」（-27点）との開きは39点と大きく、前回（39点）から変化していない。しかし、前回の結果との比較では、「峡南」（+30点）、「峡北」（+25点）で大きく増加している一方、「峡東」では-15点と減少しており、地域における満足度得点の傾向に大きな違いがある。

「娯楽」は、すべての地域で強く不満傾向が表れており、最上位の「峡中」（-16点）と最下位の「富士・東部」（-75点）の開きは59点と大きく、前回（53点）から拡大している。前回との比較においても、「峡東」（-19点）、「富士・東部」（-11点）、「峡北」（-9点）、「峡南」（-7点）、「峡中」（-5点）と、すべての地域で減少しており、不満傾向が更に強まっている。

「余暇情報」は、最上位の「峡北」（0点）と最下位の「富士・東部」（-22点）の開きは22点であり、前回（31点）から縮小している。前回の結果との比較では、「峡東」（-7点）、「峡中」（-4点）で減少している一方、「峡北」（+7点）、「峡南」（+5点）、「富士・東部」（+9点）では増加しており、地域における回答傾向に違いがある。

「自然と親しむ機会」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡北」（66点）と最下位の「富士・東部」（35点）の開きは31点と、前回（18点）から拡大している。前回の結果との比較では、「峡北」（+48点）、「峡南」（+23点）で大きく増加している一方、「峡中」（+3点）、「峡東」（+2点）、「富士・東部」（±0点）では微増または変化が無く、満足度水準の上昇傾向に地域差が確認できる。

「余暇領域」について概観すると、「自由時間」及び「自然と親しむ機会」については安定した満足度水準となっている一方、「余暇施設」「娯楽」「余暇情報」の3つの項目は、多くの地域で不満傾向が表れており、特に「娯楽」については全県的に強い不満傾向にある。

図表1-5-7 満足度得点（地域別・余暇領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
自由時間	16	36	38	31	19	50	41
	20	41	39	40	36	40	51
	24	35	37	43	26	24	37
	29	39	42	57	22	38	38
	差	4	5	14	-4	14	1
余暇施設	16	-17	-9	2	-16	-18	-38
	20	-15	-4	-37	-5	-30	-30
	24	-10	6	-26	-1	-31	-33
	29	-4	12	-1	-16	-1	-27
	差	6	6	25	-15	30	6
娯 楽	16	-20	0	-29	-20	-13	-58
	20	-29	-13	-36	-20	-50	-56
	24	-30	-11	-39	-34	-23	-64
	29	-40	-16	-48	-53	-30	-75
	差	-10	-5	-9	-19	-7	-11
余暇情報	16	-13	-5	-17	-8	-9	-34
	20	-14	-11	-2	-13	-27	-20
	24	-9	-2	-7	0	-11	-31
	29	-9	-6	0	-7	-6	-22
	差	± 0	-4	7	-7	5	9
自然と親しむ 機 会	16	29	27	32	25	45	30
	20	35	30	32	35	42	44
	24	32	33	18	36	24	35
	29	40	36	66	38	47	35
	差	8	3	48	2	23	± 0
余暇全般	16	35	34	35	31	44	36
	20	40	42	39	37	38	41
	24	38	43	32	36	27	37
	29	42	46	58	36	51	30
	差	4	3	26	± 0	24	-7

（注） 「差」は平成 24 年度と平成 29 年度との得点差。

(8) 福祉・連帯領域

最後に、福祉・連帯領域の2つの項目の満足度得点は、図表1-5-8に示すとおりである。

「全県」の得点及びその傾向を見ると、「地域とのつながり」は前回から増加して34点であり、これまでの推移を見ても安定した満足度水準が維持されている。また、「福祉施策」は-18点と、過去3回の調査を含めて一貫してマイナスとなっているものの、前々回、前回から増加傾向にあることから、不満傾向は緩和されている。

次に、この2つの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「地域とのつながり」は、最上位の「峡北」(41点)と最下位の「峡東」(29点)の開きは12点と、前回(9点)から拡大している。前回の結果との比較では、ほとんど変化しておらず、過去からの推移でも安定した満足度水準を維持している。

「福祉施策」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡南」(-12点)と最下位の「峡北」(-31点)の開きは19点と、前回(16点)より拡大している。ただし、前回の結果との比較では、変化の無かった「峡北」を除いたすべての地域で満足度得点が増加しており、全体的に不満傾向が緩和されている。

「福祉・連帯領域」について概観すると、日常生活と密接に関係している「地域とのつながり」については、過去3回の調査を含めて一貫して安定的な満足度水準を維持しているものの、「福祉施策」については、社会保障制度改革に関する論議が積極的に行われていることなどもあり、満足度得点は増加傾向にあるものの、すべての地域でマイナスのままとなった。

図表1-5-8 満足度得点(地域別・福祉連帯領域)

(単位:点)

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
地域との つながり	16	31	31	32	24	55	27
	20	31	27	24	32	39	39
	24	32	31	35	29	38	32
	29	34	33	41	29	37	35
	差	2	2	6	±0	-1	3
福祉施策	16	-27	-26	-40	-38	-3	-23
	20	-50	-48	-70	-64	-34	-42
	24	-33	-35	-31	-32	-19	-35
	29	-18	-13	-31	-19	-12	-23
	差	15	22	±0	13	7	12
福祉・連帯 全般	16	7	5	3	0	42	7
	20	-1	-4	-6	-14	19	6
	24	3	1	-4	6	20	0
	29	14	14	7	13	39	11
	差	11	13	11	7	19	11

(注) 「差」は平成24年度と平成29年度との得点差。

(9) 個別項目満足度のまとめ

以上、「健康」から「福祉・連帯」までの8領域における35の個別項目について、過去3回の調査の結果との比較などを含めながら、地域別に見てきた。これらを要約すると、以下のとおりである。

第1に、地域、個別項目によって異なる場合もあるが、全体的に見て、前回よりも満足度水準は上昇傾向にある。

第2に、強弱あるいは高低の差が見られるものの、すべての地域で満足度得点がプラスである項目は、「日常医療」「検診・相談」「交通安全」「防犯・防火」「自然環境」「大気汚染等」「ごみ・生活排水」「住宅」「仕事のやりがい」「幼稚園・保育所」「小中高の教育」「生涯学習」「文化施設」「文化財・伝統継承」「自由時間」「自然と親しむ機会」「地域とのつながり」の17項目である。前回(15項目)から増えたものに「小中高の教育」「生涯学習」の2項目がある。

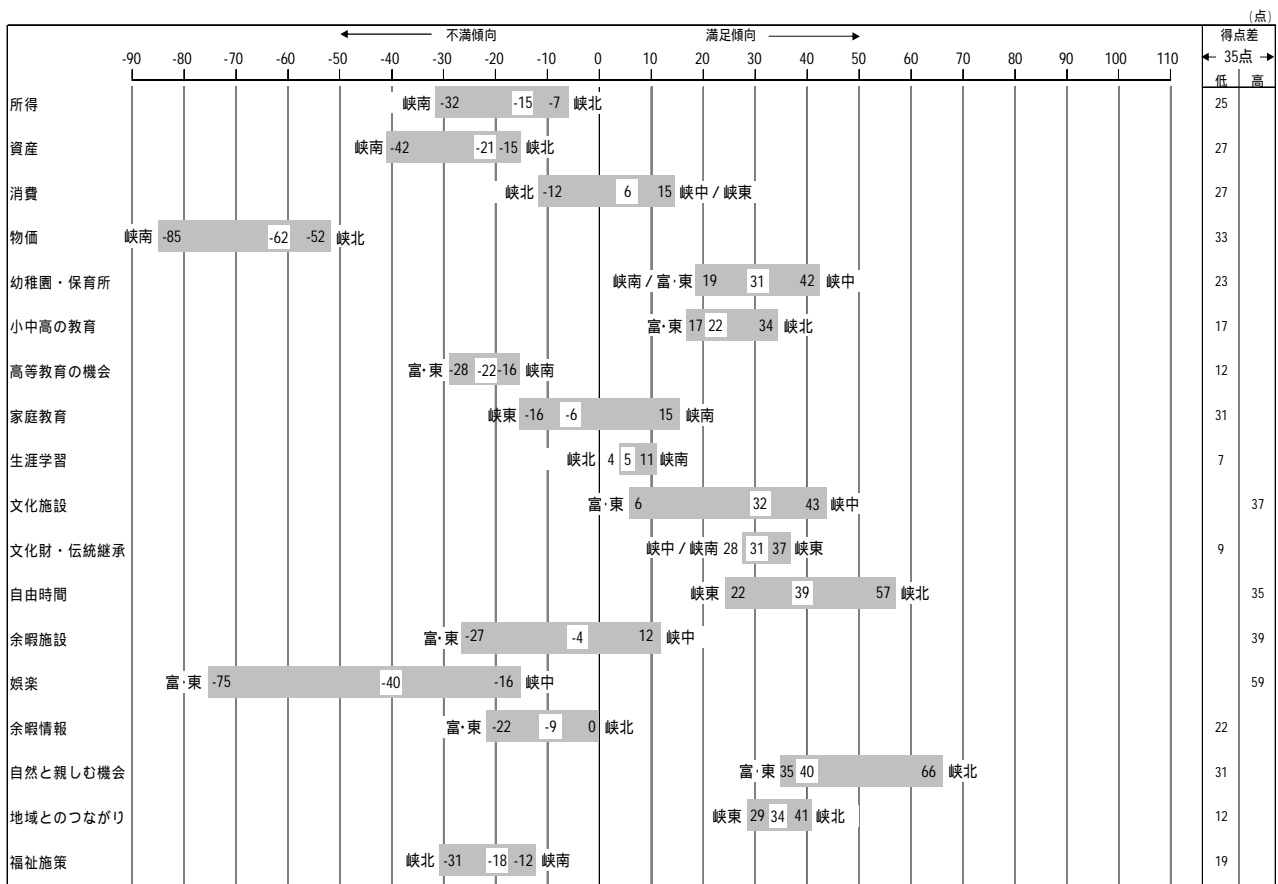
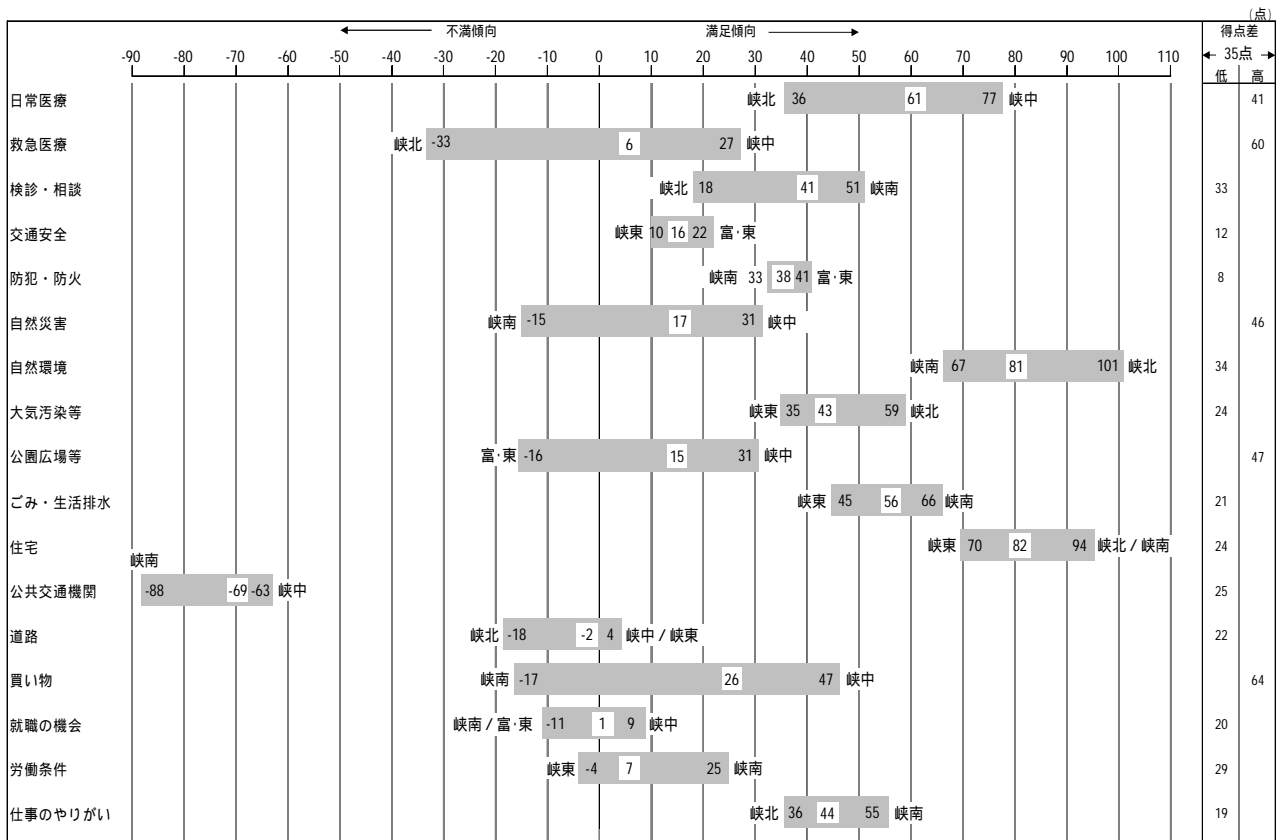
第3に、逆にどの地域においても満足度得点がマイナス(0点を含む)である項目は、「公共交通機関」「所得」「資産」「物価」「高等教育の機会」「娯楽」「余暇情報」「福祉施策」の8項目である。前回(10項目)から減ったものに「就職の機会」「家庭教育」の2項目がある。

第4に、地域により満足度得点のプラスとマイナスが混在している項目は、「救急医療」「自然災害」「公園広場等」「道路」「買い物」「就職の機会」「労働条件」「消費」「家庭教育」「余暇施設」の10項目である。

第5に、最上位の地域と最下位の地域との開きが35点以上、つまり地域間の得点差の大きい項目は、「日常医療」「救急医療」「自然災害」「公園広場等」「買い物」「文化施設」「自由時間」「余暇施設」「娯楽」の9項目である。前回との相違としては、「自由時間」で新たに地域差が拡大した一方、「公共交通機関」の地域差が縮小している。

なお、平成29年度における各個別項目についての地域間の得点差(開き)を一括して示すと、図表1-5-9のとおりである。

図表1-5-9 個別項目の地域間の得点差（平成29年度）



(注) 白抜き数字は「全県」の得点。
 「富・東」は「富士・東部」の略。
 図表右上の「得点差」は最も得点の高い地域と最も得点の低い地域の得点差。左列は35点未満、右列は35点以上。

6 まとめ

本章では、今回の調査のうち、県民に生活の満足度を問う設問について、過去の調査結果との比較を交えながら回答結果の整理・分析を行ってきた。本章のまとめとして全体をさらに要約すると、次のとおりである。

第1に、「生活全般」の満足度水準は、県全体としては上昇している。「全県」の満足傾向（満足層と不満層の差）は、前回の27.9%から大きく増加して35.8%となった。図表1-3-1のとおり、昭和52年度調査以降初めて満足傾向が30%を割った平成20年度調査以前の平成16年度調査と同様のレベルとなっている。

地域別の満足層・不満層の推移では、平成16年度、平成20年度調査において満足層が最も多かったが、前回（平成24年度調査）で4位となった「峡南」が、今回再び満足層が最多の地域となった。一方、前回調査で最下位となっていた「富士・東部」は今回も最少という結果になった。

満足度得点を見ると、性別では、「女性」が「男性」を12点上回って高い満足度を示しているが、「男性」「女性」ともに前回より得点を伸ばしており、性別による満足度得点の傾向の違いについては、今後の推移を注目していく必要がある。

年齢別では、今回から調査対象に加えられた「18～19歳」で最も満足度得点が高く、次いで、高齢者層の方が高い満足度水準を示しやすい従来からの傾向のとおり「70歳以上」が続いている。ただし、「60代」は、「40代」や「50代」に比べて低くなったことから、この「60代」の満足度得点をいかにして上げていくかが更なる満足度得点の向上において留意すべき点と考えられる。

職業別では、「勤め人」の満足度得点が「自営業・家族従業者」及び「その他」の得点を下回る従来の傾向が今回も見られた。ただし、前回からの推移では、すべての職業において増加していることから、職業別による傾向の違いについては、今後の推移を注目する必要がある。

居住年数別では、すべての年数層において増加しており、比較的「10～20年未満」「5年未満」の増加が大きく、年数層別の差は縮小している。県外居住経験別においても、「居住経験あり」「居住経験なし」の双方において満足度得点が前回から増加している。「居住経験なし」では平成16年度調査以来得点が減少してきたが、今回増加に転じたことにより、「居住経験あり」との開きはわずかとなった。

第2に、「領域全般」の満足度得点については、「全県」において8領域すべての領域で前回より増加している。特に「健康」「安全」「所得・消費」「福祉・連帯」では2桁増加している。

地域別では、「峡中」「峡南」においては8領域すべてで、「峡北」においては7領域で増加しているほか、「峡東」「富士・東部」においても増加領域数が減少領域数を上回るなど、地域による多少の違いはあるものの、全体的に増加傾向であることが明らかとなった。

性別では、男女ともにほぼすべての領域で前回より増加しており、とりわけ「所得・消費」や「健康」では男女ともに2桁増加している。

年齢別では、「18～19歳」が8領域中7領域で最上位となり、「70歳以上」も「労働」で最上位、他の6領域で第2位となるなど、満足度水準の高い年齢層となった一方、「60代」は6領域で減少し、そのうち3領域で最下位となるなど、満足度水準の低い年齢層となった。

第3に、個別項目については、地域や項目によって異なる場合もあるが、前回よりも全体的に満足度水準が向上しており、すべての地域で満足度得点がプラスとなった項目は、前回より2項目増の17項目である一方、すべての地域で満足度得点がマイナスとなった項目は、前回から2項目減の8項目となった。また、地域間の得点差が相当程度大きい(35点以上)項目の数は、項目ごとに入出りがあるものの、前回と同数の9項目であった。

第4に、8領域における満足度得点の状況、推移について総括すると、次の通りである。

今回の調査の結果、生活全般、領域ごと、個別項目ごとの県民満足度は、前回より高水準に推移している。ただし、その地域、領域、項目における満足傾向、不満傾向は様々であり、一概に全項目共通の法則を見出すことは出来ない。しかし、今後も県民満足度全体の更なる向上を図るためには、満足度得点の低い項目、満足度得点が前回より減少した項目について、その要因を分析し、これまでの施策を検証したうえで改善を図ることと並行して、満足度得点が高水準で推移している項目についても、項目に関連する方針・ビジョンや施策内容を県民に丁寧に説明しつつ、その成果が満足度水準の維持につながるように取り組む必要がある。